

-東京近郊の父親 400 人に聞く-

現代の父親の食生活

家族で育む『食』

2007 年 3 月

農林中央金庫

現代のお父さんの食生活像

子どもには食べ物を粗末にしないよう教えてきた。

家庭の夕食によく出るのは焼き魚(69.7%)。

好きな料理はカレー。
嫌いな料理は野菜の煮物。

子どもには食事後の食器運びをさせている(58.3%)。

食の安全には関心がある(67.5%)。

日頃の食生活の満足度は平均77.8点。

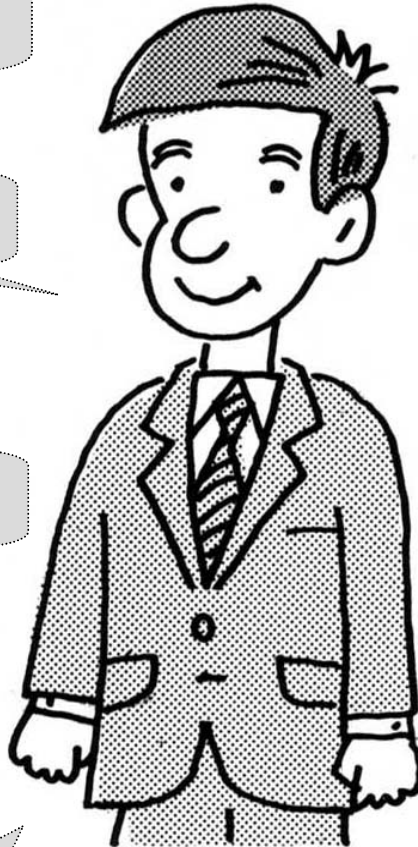
朝ごはんは毎日食べる(49.3%)。パンが多い。

平日の昼食予算は平均607.6円。












子どものごはんやお弁当を作ったことがない(72.0%)。

得意料理はチャーハン。

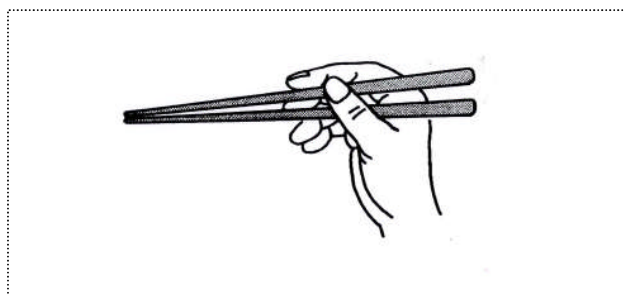
家族と一緒にごはんを食べよう“努力している”(59.5%)。



過去の調査結果との比較

	平成16年度 「子」	平成17年度 「高校生」	平成18年度 「父」	平成15年度 「母」
				
毎日朝ごはんを食べる割合	高 83.8%	← →	低 49.3%	-
朝ごはんを食べない割合	0.5%	3.5%	12.0%	-
朝ごはんを食べるもの(最多回答)		 パン		-
好きな料理・おかず(最多回答)	 ハンバーグ	 カレー	 カレー	-
きれいな料理・おかず(最多回答)	 魚	 ピーマン	 野菜の煮物	-
食事のときに行っていること	家族と話をする			-
食について関心のあること	料理の作り方	料理の作り方	おいしい食品・店	献立・レシピ
食について子どもに教えてきた事柄	-	-	食べ物を粗末にしない	いただきます・ご馳走さまをいう
おはしを参考図のように持てる※	低 58.0%	← →	高 76.3%	-
子どもに参加させるようにしてきたもの	-	-	食事後の食器を運ぶ	食事後の食器を運ぶ
食の安全にどのくらい関心があるか	低 51.5%	← →	→	高 88.8%
日本の食糧自給率 正解者	-	13.8%	23.5%	-
どの程度自給すべきか	-	半分くらい	3分の2	-

おはしの持ち方参考図



調査企画

1. 調査目的

この調査は、東京近郊に住む 30～40 代の父親を対象に、“食”をとりまく状況についてたずね、現代の父親の“食”に関する意識と実態を探ることを目的に実施しました。

なお、過去 3 回行った母親、小学 4 年生～中学 3 年生、高校生を対象にした『食』の調査との比較も巻末にあげました。

2. 調査対象

首都 20km～50km のドーナツ圏に居住する子供を持つ 30 歳～49 歳の男性

3. 調査対象の抽出方法

調査地点を無作為に抽出し、地点内に居住する子供を持つ男性を調査対象とするエリアサンプリング法

4. 調査方法

調査票を用いた自記式留置法

5. 調査期間

2006 年 11 月 22 日～12 月 7 日

6. 標本構成

有効回収 400 名の標本構成は以下の通りです（上段：サンプル数、下段：構成比）

F1. 年 齢(平均 39.5 歳)

サンプル数	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳
400	100	100	99	101
100.0	25.0	25.0	24.8	25.3

F2. 職 業

サンプル数	会社員、団体職員	公務員	商工農 自営	自由業、経営	パート、アルバイト、派遣	その他 有職	無職
400	294	34	27	35	6	4	-
100.0	73.5	8.5	6.8	8.8	1.5	1.0	-

F 3 . 妻の就業形態

サンプル数	常勤	パート、アルバイト	その他有職	無職(専業主婦)	妻はいない
400	30	144	12	211	3
100.0	7.5	36.0	3.0	52.8	0.8

F 4 . 同居家族人数(自分も含む)(平均 4.1 人)

サンプル数	2人	3人	4人	5人	6人以上
400	1	88	198	85	28
100.0	0.3	22.0	49.5	21.3	7.0

F 5 . 子どもの人数(平均 2.0 人)

サンプル数	1人	2人	3人	4人以上
400	98	228	69	5
100.0	24.5	57.0	17.3	1.3

F 6 . 子どもの学齢

サンプル数	未就学児	小学生	中学生	高校生	大学、専門学校など学生	社会人
400	170	213	114	70	31	17
100.0	42.5	53.3	28.5	17.5	7.8	4.3

F 7 . 子どもの性別

サンプル数	男女両方	男子のみ	女子のみ
400	184	117	99
100.0	46.0	29.3	24.8

F 8 . 親世帯との(三世代)同居の有無

サンプル数	同居している	同居していない
400	53	347
100.0	13.3	86.8

F9. 住居形態

サンプル数	戸建	集合住宅
400	242	158
100.0	60.5	39.5

F10. 喫煙の有無

サンプル数	吸う	吸わない
400	205	195
100.0	51.3	48.8

F10 - 1. 1日の喫煙本数

サンプル数	4本以下	5～9本	10～14本	15～19本	20本以上
205	7	14	46	47	91
100.0	3.4	6.8	22.4	22.9	44.4

F11. 飲酒(平均4.0日/週)

サンプル数	ほぼ毎日飲む	週に2～5日くらい飲む	週に1日以下	飲まない
400	155	142	48	55
100.0	38.8	35.5	12.0	13.8

目次

調査企画

調査結果の要約 7

調査結果の内容 9

東京近郊の父親 400 人に聞く 食事の実態

1 . 朝ごはん 11

「毎日」(49.3%) 食べる人が約半数だが、「3・4回」(15.0%)、「5・6回」(13.0%)など、“毎日ではない”(38.8%)人も多く、「食べない」(12.0%)人も1割強みられる。平均は「4.8回/週」

朝ごはんを食べない日がある主な理由は、「起きるのが遅い」(41.9%)、「食欲がない」(36.9%)

朝ごはんを一緒に食べることが多いのは、「子ども」(48.9%)、「妻」(48.3%)がほぼ同数だが、「ひとりで」(46.6%)というケースも劣らず多い

朝ごはんをひとりで食べるのは、「家をでるのが家族より早いから」(75.6%)という父親が多く、そのほか、「家をでるのが家族より遅いから」(17.1%)、「家族それぞれ好きな時に食べているから」(7.9%)など

ふだん、朝ごはんに食べているものは、「パン」(69.3%)が最も多く、次いで「卵料理」(62.5%)、「ごはん」(55.7%)が続く、“朝はパン食”が多い

2 . 昼ごはん 14

平日の昼食は「職場外の飲食店へ行く」(45.8%)人が最も多く、そのほかにも、「市販弁当を買う」(26.5%)、「家で弁当を作ってもらう」(25.5%)、「職場の食堂、カフェテリアなどを利用する」(23.8%)などさまざま。

昼食の予算は、平均「607.6円」

平日の昼食時によく食べるものは「ごはんとおかず」(84.1%)がトップ。以下、「うどん・そば」(47.9%)、「ラーメン」(43.3%)などが続き、昼食は“ごはん”“めん類”が多い

3 . 夕ごはん17

夕ごはんを家で「毎日」(47.5%)食べる人は半数弱。平均は「5.4回/週」で、「朝ごはん」(4.8回/週)よりやや多い
夕ごはんを家で食べない日があるのは、「職場のつきあいがある」(72.4%)、「仕事がある」(61.0%)が2大要因。職場のつきあいの頻度は、週に「1~2回未満」(34.2%)、「週に1回未満」(27.0%)、「2~3回未満」(27.0%)などで、平均は「1.5回/週」

夕ごはんを一緒に食べる人が多いのは、『a)平日』は「妻」(62.9%)、「子ども」(56.4%)が6割前後で、「ひとりで」(53.1%)食べることも。『b)休日』はほとんどの人が「子ども」(97.2%)、「妻」(96.5%)と夕食をともにしている

夕ごはんによく出てくる料理・食品として「焼き魚」(69.7%)をあげる人が多く、「シチュー・カレー」(68.9%)も僅差で続く。以下、「野菜などの炒め物」(63.4%)、「野菜・魚などの煮物」(60.7%)、「サラダ」(58.9%)、「チキンなどの揚げ物」(56.6%)、「焼き肉・ステーキ」(54.6%)など

好きな料理、おかずは、「カレー」(86件)がトップ。以下、「なべ物」(68件)、「焼き魚」(68件)、「刺身」(66件)、「ギョウザ」(56件)、「ハンバーグ」(43件)など

嫌いな料理、おかずは、「野菜などの煮物」(15件)が最も多く、以下、「カボチャ」(13件)、「セロリ」(12件)、「納豆」(12件)が並ぶ

“出来合いのもの”が出る頻度は、週に「1・2回」(50.6%)が圧倒的に多く、以下、「3・4回」(9.5%)、「5・6回」(1.8%)などで、平均は「1.4回/週」

4 . ふだん、好んでよく飲むお酒23

「ビール(発泡酒なども含む)」(61.0%)が最も多く、続く「焼酎(酎ハイ含む)」(52.0%)の2種類が中心

5 . 家で晩酌をするか24

「いつもしている」(35.8%)人が3人に1人以上で、「時々している」(23.5%)、「たまにしている」(20.0%)を合わせると、晩酌を“する” (79.3%)人が8割

東京近郊の父親 400 人に聞く 家族との食事の実態と意識

1 . 家族と一緒にごはんを食べるように努力しているか25

“努力している(とても+まあ)” (59.5%)人が6割を占め、“努力していない(あまり+全く)” (40.5%)人を上回る
具体的には、「週末は一緒に食べるようにしている」(68.1%)が最も多く、次いで「夕食を出来るだけ一緒に食べるようにしている」(59.2%)。以下、「朝食を出来るだけ一緒に食べるようにしている」(31.1%)、「家族で外食するようにしている」(18.9%)の順

2 . 家族が全員そろって食事をする回数27

4割は「週に7回以上」(39.5%)、すなわち平均“1日に1回”以上家族そろって食事をしている。以下、「週に3~6回くらい」(34.0%)、「週に1、2回くらい」(21.5%)などの順で、“週に1回未満”は5.0%

3 . 家で食事の時にしていること28

「家族と話をする」(92.5%)が圧倒的に多く、コミュニケーションを大事にしている人がほとんど。「テレビを見る」(63.0%)家庭も多いが、中には「新聞を読む」(8.5%)、「だまって食べているだけ」(6.8%)の人も

4 . 家で食事の時、家族と話していること29

「子どもの友だちのことや出来事」(73.3%)、「家庭であったこと」(67.0%)の2項目が多い。そのほか「ニュース」(45.5%)、「テレビ番組やタレントのこと」(44.3%)、「スポーツ」(33.3%)、「子どもの勉強や受験のこと」(27.0%)など

5 . 家庭の食生活で参加をしていること30

「食品の買い物」(53.5%)が特に多く、以下、「食事後の食器を運ぶ」(34.5%)、「料理を作る」(29.8%)、「食器を洗う」(25.5%)などの順だが、「何もしない」(28.8%)人も3割近い

食品の買い物をする頻度は、「週に1回くらい」(43.0%)が最も多く、以下、「月に1、2回くらい」(23.4%)、「週に2～3回」(22.0%)などの順で、平均は「4.9回/月」

家で料理を作る頻度も、「週に1回くらい」(31.9%)が最も多く、以下、「月に1、2回くらい」(27.7%)、「月に1回未満」(22.7%)などの順で、平均は「4.4回/月」

家庭でよく作る料理は、「チャーハン」(25件)がトップ。「パスタ」(17件)、「カレー」(16件)が続く

6 . 子どものごはんやお弁当を作ったことがあるか34

「ある」(28.0%)人は3割弱で、「ない」(72.0%)父親が多い

妻が(有職主婦)の場合は経験者が多い(有職 33.9%、専業 22.3%)

7 . 日頃の食生活についての満足度を採点すると 100点満点で何点になるか35

「80～90点未満」(27.3%)の人が多く、「100点(満点)」(12.0%)という人は1割強。平均は「77.8点」

8 . 自分が一家の大黒柱だと感じているか36

4人中3人が「感じる」(73.3%)と答え、「どちらともいえない」(23.5%)や「感じない」(3.3%)は少数

妻が(専業主婦)の方が大黒柱と「感じる」人は多い(有職 66.7%、専業 79.1%)

東京近郊の父親 400人に聞く 家族が伝える食

1 . 食について、どんなことに関心があるか37

「おいしい食品・店」(36.8%)が最も多いが、「からだに良い食べ物」(36.0%)、「安全性」(35.3%)、「栄養」(30.3%)が続く、「おいしいもの」と「健康」が主な関心。以下、「食材の特徴・旬」(18.3%)、「調理の技術・コツ」(16.8%)、「献立・レシピ」(16.8%)などの順

2 . “食とのかかわり”について、何、もしくは誰の影響が大きいと思うか38

「テレビ」(51.8%)が最も多く、「妻」(48.0%)が続く。以下、「新聞」(40.3%)、「母親」(32.0%)、「父親」(11.8%)、「雑誌」(9.8%)、「インターネット」(9.0%)と、メディアと家族双方から

3. 「おふくろの味」というものがあるか.....39

7割が「ある」(71.0%)と答え、「ない」(29.0%)を大きく上回る

具体的には、「煮物」(73件)がトップ、次いで「味噌汁など汁物」(61件)。そのほか、「ご飯もの(オムライス除く)」(34件)、「肉じゃが」(28件)、「カレー」(24件)などの順

4. 郷土料理や行事食を子どもの世代に伝えていきたいと思うか.....40

「なるべく伝えたい」(58.0%)など“伝えたい”(79.5%)が8割近くを占め、“伝えたいと思わない”(20.5%)は少数。好きな郷土料理・行事食は「鍋・汁物」(67件)、「お雑煮」(61件)が抜きんでて多い。以下、「その他(お雑煮、お寿司、赤飯、おはぎなど以外)のご飯・もち」(43件)、「お寿司」(39件)、「煮物」(34件)など

5. 食べ物や食事について、子どもに教えてきたこと.....41

「食べ物を粗末にしない」(73.0%)が最も多く、そのほか、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(68.8%)、「好き嫌いをしない」(60.0%)など、食べ物の大切さやあいさつを教える父親が多い。以下、「食卓に肘をつかない」(44.3%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(32.5%)、「お菓子などをだらだら食べない」(29.3%)など

6. おはしの持ち方.....42

参考図のように「持っている」(76.3%)のは4人中3人

7. 子育ての中で、食物や食事について、子どもに参加・実行させるようにしてきたこと...43

「食事後の食器を運ぶ」(58.3%)、「食卓の支度」(41.8%)、「食事の準備」(30.0%)など、準備や後片付けの手伝いをさせている家庭が多い。以下、「食品の買い物」(20.0%)、「食器を洗う」(11.5%)などが続くが、「魚釣り」(6.8%)、「収穫など農作業体験」(6.0%)のような、生産に関わる体験をさせてきた家庭は少ない

東京近郊の父親 400 人に聞く 次世代へ繋ぐ食

1. 「食の安全」への関心度.....44

“関心がある(とても+まあ)”(67.5%)人が3分の2を占め、“関心がない”(32.5%)は少数

関心がある具体的な内容は「BSE(狂牛病)」(63.7%)が最も多く、次いで「鳥インフルエンザ」(60.7%)が続き、身近な食材に関する問題が上位を占めている。また、「食品添加物」(57.0%)、「残留農薬」(50.0%)といった化学物質が気になる人も多い。以下、「保存期間」(37.4%)、「輸入食品」(34.4%)、「遺伝子組換え食品」(27.0%)など

2. 日頃から食べている、あるいは食べてもかまわないと思っているもの.....46

4割強が「アメリカ産牛肉」(42.8%)、4割弱が「輸入野菜」(36.5%)を容認しており、「遺伝子組換え食品」(15.8%)は低いものの、「どれも食べていない、食べたくない」(35.3%)は3分の1強にとどまる

3. 現在、日本の食料自給率はどれくらいだと思うか.....47

「30%」(28.5%)が最も多く、正解の「40%」(23.5%)、「20%」(13.5%)が続き、実際より低いと思っている人が半数近い。「わからない」(7.8%)も1割弱

食の安全への(関心がある)人の正解率は27.0%で、実際より低めにみる傾向も

4 . 日本は、どの程度食料を自給すべきだと思うか48

「3分の2くらい」(52.8%)が半数を占め、次いで「100%」(21.0%)、「半分くらい」(18.5%)など、ほとんどの人が自給率を上げるべきと思っている

8 . 子どもの世代にとって望ましいと思う食の環境とは49

「無添加、無農薬など安全性が高く健康的な食環境」(141件)が圧倒的に多く、次いで、「食料自給率の向上や自然保護などにより、食糧に困らない環境」(68件)と、飢えのない安全な食生活を望む声を中心。また、「好き嫌いがなく、1日3回栄養バランスのとれた食事をする」(38件)、「家族全員が揃った食事(家庭料理を食べる)」(36件)など、日常の食生活の大切さを認識する意見も

過去の調査

.....50

調査結果の要約

三食の摂取の実態と意識

1. 朝ごはん

「毎日」(49.3%)家で食べる父親は約半数ですが、「食べない」(12.0%)という人も1割強います。平均は週に「4.8回」。朝ごはんを家で食べない日があるのは、「起きるのが遅い」(41.9%)、「食欲がない」(36.9%)が主な理由で、前者は子ども世代と共通しています。朝ごはんをひとりで食べる(46.6%)ことがあるのは、「家を出るのが家族より早いから」(75.6%)。献立は「パン」(69.3%)が「ごはん」(55.7%)より多くなっています。

2. 昼ごはん

平日の昼食は、「職場外の飲食店へ行く」(45.8%)という人が多く、「市販弁当を買う」(26.5%)、「家で弁当を作ってもらう」(25.5%)が続きます。よく食べるのは、「ごはんとおかず」(84.1%)、「うどん・そば」(47.9%)、「ラーメン」(43.3%)などで、外食や購入する場合の予算平均は「607.6円」です。

3. 夕ごはん

- ・家で「毎日」(47.5%)食べる父親は半数弱で、「職場のつきあいがある」「仕事がある」ため欠けることもありますが、平均すると週に「5.4回」は食べています。但し、平日は「ひとりで」(53.1%)食べる人が多くなっています。休日はほとんどの人が「子ども」や「妻」と食卓を共にしています。
- ・夕ごはんによく出てくる料理は「焼き魚」(69.7%)、「シチュー・カレー」(68.9%)、「野菜などの炒め物」(63.4%)、「野菜・魚などの煮物」(60.7%)などで、子ども世代の回答に比べ、魚が多めです。
- ・好きな料理(自由回答)は「カレー」(86件)がトップ。以下、「なべ物」(68件)、「焼き魚」(68件)、「刺身」(66件)、「ギョウザ」(56件)、「ハンバーグ」(43件)などが続き、上位は子ども世代と変わりません。嫌いな食べ物(自由回答)は「野菜などの煮物」(15件)、「カボチャ」(13件)、「セロリ」(12件)、「納豆」(12件)などです。
- ・家で晩酌を「いつもしている」(35.8%)人が3人に1人以上で、「ビール」「焼酎」を好んでいます。

食事や料理に対する意識

1. 家族との食事

- ・家族と一緒にごはんを食べるように「努力している(とても+まあ)」(59.5%)人が6割で、その内容は、「週末は一緒に食べるようにしている」が第一です。とはいえ、4人に3人は「週に3回以上」家族全員そろって食事をとっています。
- ・食事の時、「家族と話をする」(92.5%)、「テレビを見る」(63.0%)という人が多く、子ども世代以上に会話を心がけているという結果です。
- ・家族との会話の内容は、「子どもの友だちのことや出来事」(73.3%)、「家庭であったこと」(67.0%)、「ニュース」(45.5%)、「テレビ番組やタレントのこと」(44.3%)などで、話題の中心は家族です。

2. 食生活への参加

- ・家庭の食生活で参加していることは、「食品の買い物」(53.5%)、「食事後の食器を運ぶ」(34.5%)、「料理を作る」(29.8%)などで、よく作る料理のベスト3は「チャーハン」「パスタ」「カレー」です。子どものごはんやお弁当を作ったことが「ある」(28.0%)人の率は、料理を作る人とほぼ同率です。
- ・食生活の満足度は、100点満点で「80~90点未満」(27.3%)と評価する人が多く、平均は「77.8点」。自分が一家の大黒柱だと「感じる」(73.3%)人は、4人中3人です。

家族が伝える食

- ・食について関心があるのは、「おいしい食品・店」(36.8%)、「からだに良い食べ物」(36.0%)、「安全性」(35.3%)、「栄養」(30.3%)などで、“おいしさ”と“健康”が主になっています。
- ・食とのかかわりについて「テレビ」(51.8%)、「妻」(48.0%)、「新聞」(40.3%)、「母親」(32.0%)の影響が大きいと考えており、メディアと家族双方から受けているようです。
- ・71.0%は、おふくろの味というものが「ある」と答え、具体的には「煮物」「味噌汁など汁物」「ごはんもの」をあげています。
- ・郷土料理や行事食を、子どもの世代に「ぜひ伝えたい」(21.5%)、「なるべく伝えたい」(58.0%)と8割近くが思っており、好きな郷土料理・行事食は「鍋・汁物」「お雑煮」などです。
- ・これまで子どもに教えてきたことは、「食べ物を粗末にしない」(73.0%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(68.8%)、「好き嫌いをしない」(60.0%)などで、参加・実行させるようにしてきたこととして、「食事後の食器を運ぶ」(58.3%)、「食卓の支度」(41.8%)、「食事の準備」(30.0%)などがあげられています。

次世代に繋ぐ食

- ・食の安全に“関心がある(とても+まあ)”(67.5%)人は3分の2で、具体的には「BSE(狂牛病)」「鳥インフルエンザ」「食品添加物」などへの関心が高くなっています。とはいえ、42.8%は「アメリカ産牛肉」を、36.5%が「輸入野菜」、15.8%が「遺伝子組換え食品」を容認しています。
- ・日本の現在の食料自給率を「40%(正解)」(23.5%)と答えた人は4分の1弱で、「30%」(28.5%)、「20%」(13.5%)など低めにとらえている人が多く、子ども世代の傾向と変わりません。一方、どの程度自給すべきだと思うか、の間には、「3分の2くらい」(52.8%)、「100%」(21.0%)との回答が多く、子ども世代よりかなり高い自給率を望んでいます。
- ・自分の子どもの世代にとって望ましいと思う食の環境として、「無添加、無農薬など安全性が高く健康的な食環境」(141件)をあげる人が圧倒的に多く、次いで、「食料自給率の向上や自然保護などにより、食糧に困らない環境」(68件)が上位に並びました。以下、「好き嫌いがなく、1日3回栄養バランスのとれた食事をとる」(38件)、「家族全員が揃った食事(家庭料理を食べる)」(36件)、「食べ物を大切に、作った人へ感謝の気持ちを持つことができる」(34件)など、きちんとした食事、家族交流の場としての食卓、食文化や旬、生産者への感謝などを大切にしたいという望みが多くなっています。

調査結果の内容

1. 朝ごはん

1-1. 家で朝ごはんを食べる回数

図 1. 家で週に何回くらい「朝ごはん」を食べているか

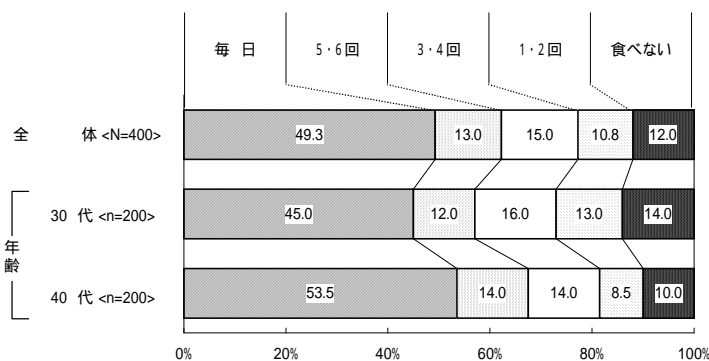
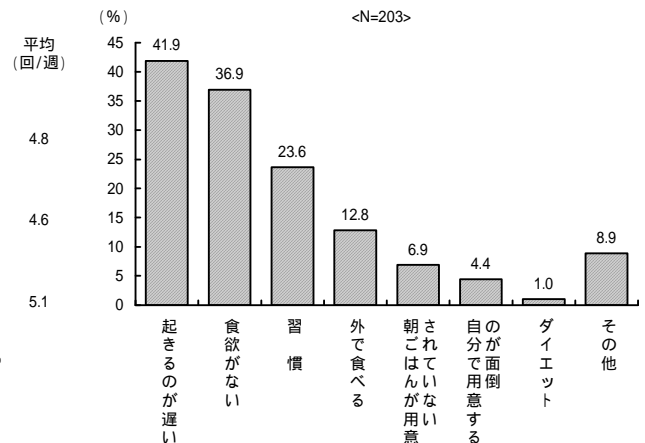


図 2. 朝ごはんを、家で食べない日がある理由（複数回答）



家で週に何回くらい「朝ごはん」を食べているかたずねたところ、「毎日」(49.3%)が約半数を占めていますが、「食べるが毎日ではない」(38.8%)人も4割近くと少なくありません。また、「食べない」(12.0%)人も1割強みられます。平均は「4.8回/週」です。

年齢別でみると、「毎日」食べる人の割合は、《40代》(53.5%)が《30代》(45.0%)よりやや高くなっています。親との同居の有無別でみると、《同居》(58.5%)の方が《非同居》(47.8%)より10ポイントほど高率になっています。三世代家族は、朝食の習慣がしっかりついているのかもしれませんが。

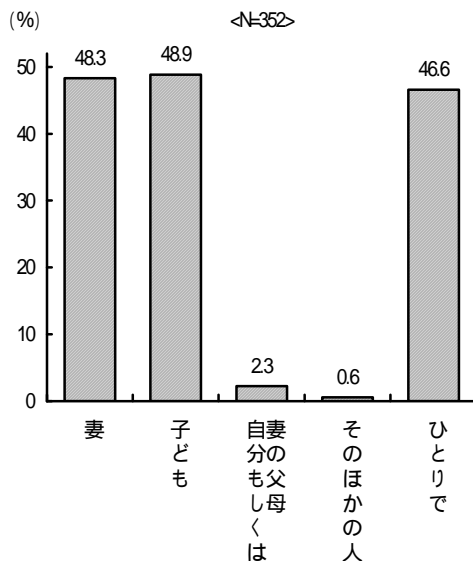
また、同居家族人数別でみると、「毎日」の割合は《2～3人》(40.4%) 《4人》(48.0%) 《5人以上》(58.4%)のように人数が増えるほど増加し、平均回数も多くなっています。上でみたように、親と同居しているなど家族人数が多い家庭の方が、家で朝ごはんを食べる傾向が強いです。但し、「食べない」人の率は変わりません。

後にみる、家族一緒に食事をする努力度別に平均回数をみると、《努力していない》4.7回 《まあ努力している》4.9回 《とても努力している》5.3回と、努力している人の方が頻度は高くなっています。しかしそれほど大きな差はなく、会社や仕事の影響の大きさがうかがえます。

朝ごはんを、家で食べない日がある人に対して、その理由を複数回答でたずねたところ、「起きるのが遅い」(41.9%)が4割強で最も多く、次いで「食欲がない」(36.9%)が続く、この2項目が主になっています。

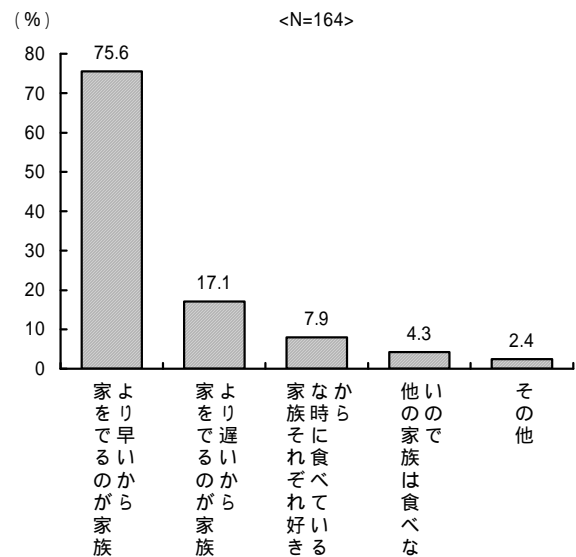
1 - 2 . 誰と一緒に朝ごはんを食べることが多いか

図 3 . 誰と一緒に朝ごはんを食べることが多いか (複数回答)



年齢	30代 (N=172)	40代 (N=180)	妻	子ども	自妻分の父もしくは母	そのほかの人	ひとりで
30代 (N=172)	50.6	52.9	2.3	0.6	39.0		
40代 (N=180)	46.1	45.0	2.2	0.6	53.9		
子供の数							
1人 (N=88)	59.1	46.6	3.4	2.3	39.8		
2人 (N=198)	46.0	49.5	1.5	-	49.0		
3人以上 (N=66)	40.9	50.0	3.0	-	48.5		

図 4 . 朝ごはんをひとりで食べる理由 (複数回答)



誰と一緒に朝ごはんを食べることが多いかたずねてみたところ、「子ども」(48.9%)が最も多く、「妻」(48.3%)もほぼ同率で続いています。また、「ひとりで」(46.6%)も半数近くが上げています。

年齢別でみると、「ひとりで」食べているのは《40代》(53.9%)が《30代》(39.0%)より多くなっています。子どもが大きくなるにつれ家族それぞれが忙しくなり、一緒に朝ごはんをとる機会が減るのかもしれませんが。

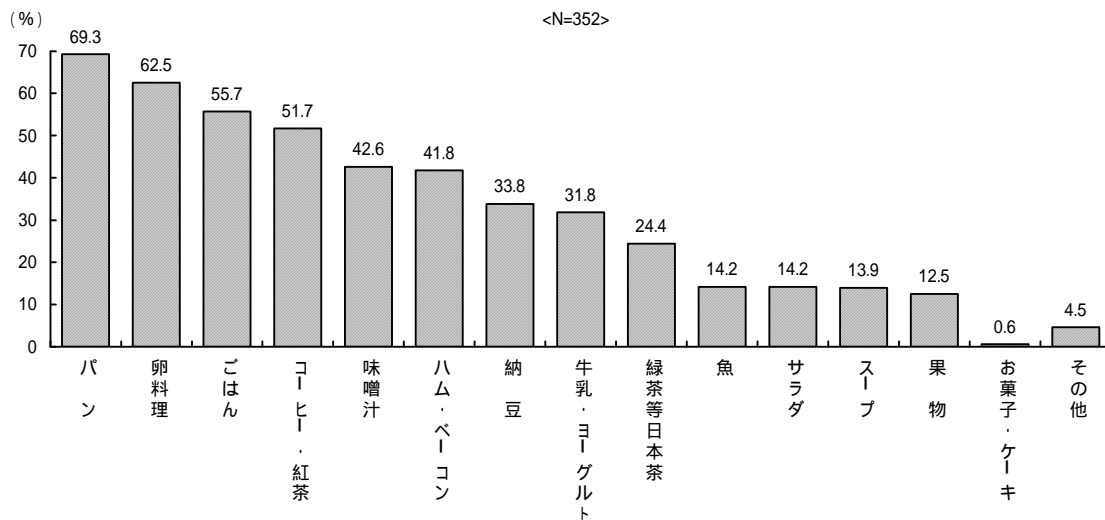
子どもの人数別でみると、子どもが少ないほど「妻」と食べる機会が多く、子どもが多くなると朝ごはんを「子ども」と食べるか、「ひとりで」食べるケースが増えています。子どもが多いとお母さんは忙しく、一緒に食卓につく機会が減るようです。

家族一緒に食事する努力度別でみると、《とても努力している》父親は「妻」「子ども」(各67.3%)ともに3人中2人があげており、《努力していない》父親(妻45.4%、子ども41.1%)との差が大きくなっています。

朝ごはんをひとりで食べる人が、その理由を聞いたところ、「家をでるのが家族より早いから」(75.6%)が圧倒的に多く、以下、「家をでるのが家族より遅いから」(17.1%)がそれに次いで多い結果となっています。都心部に勤めている場合などは、通勤時間が長いとほかの家族と起床時間が合わないことが影響しているのかもしれませんが。

1 - 3 . ふだん、朝ごはんに食べているもの

図 5 . ふだん、朝ごはんに食べているもの（複数回答）



年齢	30代 <n=172>	75.0	59.3	51.7	52.3	40.7	39.5	30.2	35.5	21.5	12.8	12.2	16.3	8.7	0.6	4.7
40代 <n=180>	63.9	65.6	59.4	51.1	44.4	43.9	37.2	28.3	27.2	15.6	16.1	11.7	16.1	0.6	4.4	

ふだん、朝ごはんに食べているものをみると、「パン」(69.3%)が最も多く、次いで「卵料理」(62.5%)、「ごはん」(55.7%)が続いており、「朝はパン食」が優勢のようです。以下、「コーヒー・紅茶」(51.7%)、「味噌汁」(42.6%)、「ハム・ベーコン」(41.8%)、「納豆」(33.8%)、「牛乳・ヨーグルト」(31.8%)などの順で、飲み物やおかずからも和食より洋食の家庭が多いことがうかがえます。

年齢別でみると、《30代》では「パン」(30代75.0%、40代63.9%)、「牛乳・ヨーグルト」(同35.5%、28.3%)の割合が高いのに対し、《40代》では「ごはん」(同51.7%、59.4%)、「納豆」(同30.2%、37.2%)をあげる人がやや多く、若い年代ほどパン食の傾向が強まっているようです。

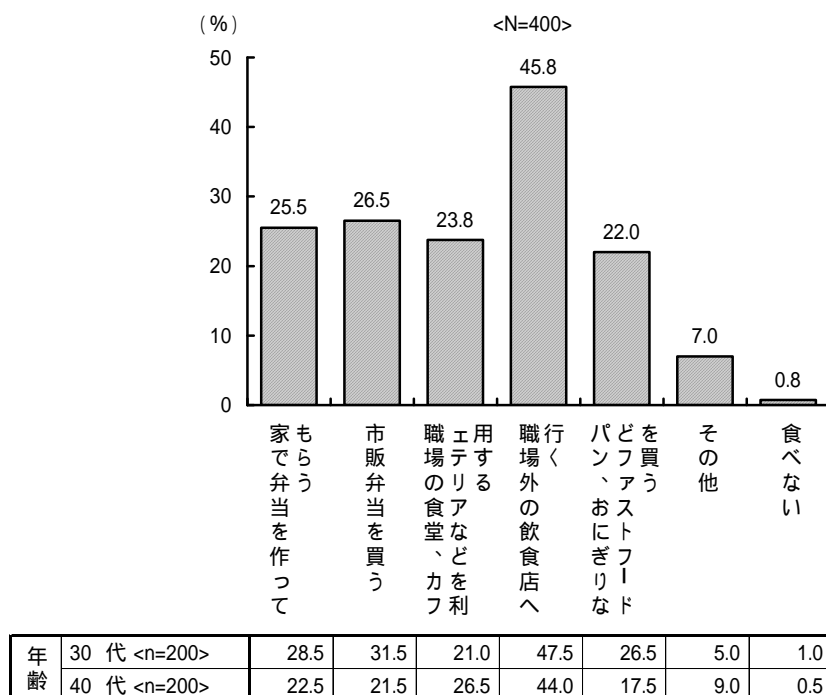
親との同居の有無別でみると、《同居》の方が「ごはん」(同居66.7%、非同居53.9%)、「味噌汁」(同62.5%、39.5%)、「納豆」(同43.8%、32.2%)をよく食べており、「ごはん」の割合が「パン」(50.0%)より高くなっています。

同居家族人数別では、人数が増えるほど「ごはん」(2~3人34.2%、4人53.2%、5人以上77.0%)、「味噌汁」(同29.1%、39.3%、59.0%)、「魚」(25.3%、30.1%、47.0%)、「緑茶等日本茶」(16.5%、22.5%、34.0%)の割合が高く、反対に人数が少ないほど「パン」(同77.2%、75.1%、53.0%)の家庭が多くなっています。

2. 昼ごはん

2 - 1 . 平日の昼食をどのように用意したり、購入したりしているか

図 6 . 平日の昼食をどのように用意したり、購入したりしているか（複数回答）



平日の昼食をどのように用意したり、購入したりしているか聞いたところ、「職場外の飲食店へ行く」(45.8%) が特に多く、以下「市販弁当を買う」(26.5%)、「家で弁当を作ってもらおう」(25.5%)、「職場の食堂、カフェテリアなどを利用する」(23.8%)、「パン、おにぎりなどファストフードを買う」(22.0%)が僅差で並んでいます。「家で弁当を作ってもらおう」ことがある人は4人に1人程度で、“買って食べる”(84.3%)ケースが大半を占めており、昼食は自分で選ぶ父親が多いようです。

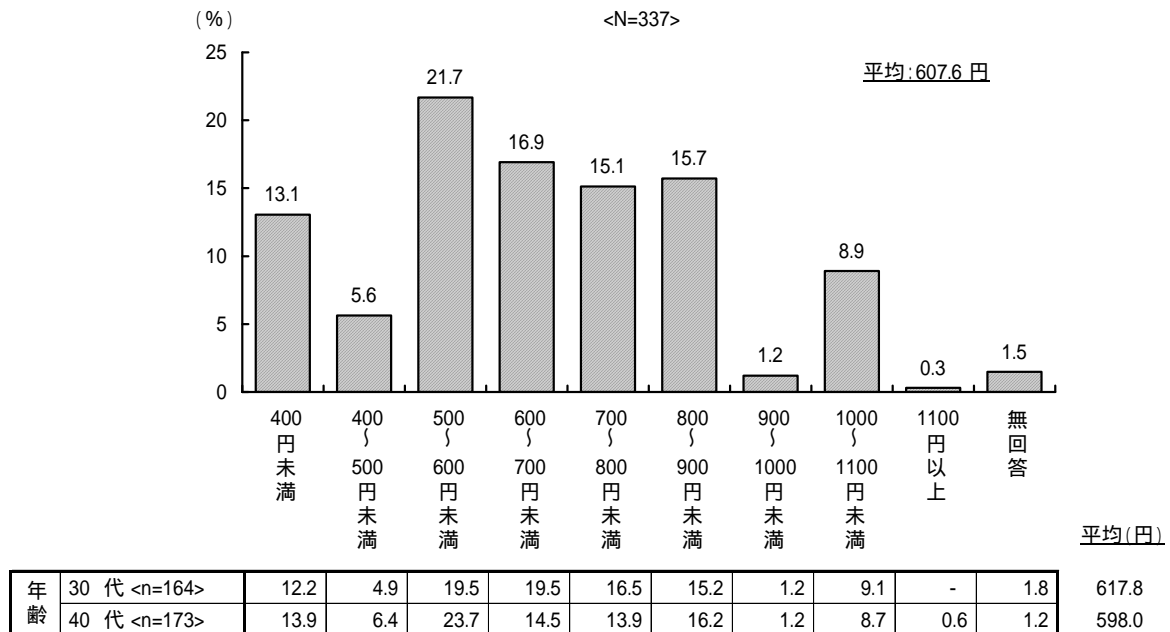
年齢別でみると、全体に《30代》は社外で食べたり、買って来たりする人が多いのに対し、《40代》は「職場の食堂、カフェテリアなどを利用する」(26.5%)が《30代》(21.0%)より若干高くなっています。

妻の仕事の有無別でみると、《有職主婦》の場合は「家で弁当を作ってもらおう」(29.0%)が《専業主婦》(22.7%)より高く、逆に「職場外の飲食店へ行く」(順に 38.2%、52.6%)は《専業主婦》の場合のほうが高くなっています。

また、子どもの人数別でみると、子どもが多いほど「職場外の飲食店へ行く」(《1人》52.0% 《2人》45.6% 《3人以上》37.8%)が減り、「パン、おにぎりなどファストフードを買う」(同 14.3%、21.1%、35.1%)が多くなります。

2 - 2 . 昼食の平均的な予算

図 7 . 昼食の平均的な予算



昼食の平均的な予算をみると、「500～600 円未満」(21.7%) が最も多くなっていますが、「600～700 円未満」(16.9%)、「800～900 円未満」(15.7%)、「700～800 円未満」(15.1%) などが小差で並んでいます。“500 円～900 円未満”に約7割(69.4%)が集まっていますが、「400 円未満」(13.1%)、「1,000～1,100 円未満」(8.9%)という人もみられます。平均は「607.6 円」です。

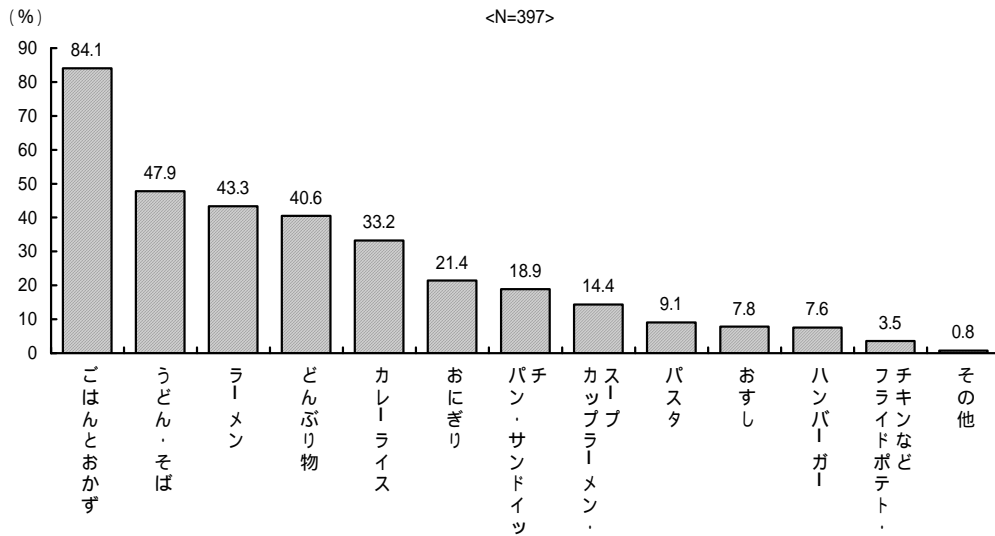
年齢別による目立った差はありません。

妻の仕事の有無別でみると、平均予算は《専業主婦》(636.6 円)の場合の方が《有職主婦》(573.1 円)より 60 円ほど高くなっています。

子どもの人数による大きな差はありません。

2 - 3 . 平日の昼食時によく食べるもの

図 8 . 平日の昼食時によく食べるもの（複数回答）



年齢	30代 <n=198>	40代 <n=199>	ごはんとおかず	うどん・そば	ラーメン	どんぶり物	カレーライス	おにぎり	パチン・サンドイッチ	カップラーメン・スープ	パスタ	おすし	ハンバーガー	フライドポテト	その他
30代 <n=198>	85.4	42.9	46.5	42.4	36.4	25.3	19.2	17.7	9.6	5.1	10.6	4.0	-		
40代 <n=199>	82.9	52.8	40.2	38.7	30.2	17.6	18.6	11.1	8.5	10.6	4.5	3.0	1.5		

平日の昼食時によく食べるものをあげてもらったところ、「ごはんとおかず」(84.1%)が抜きんで多く、以下、「うどん・そば」(47.9%)、「ラーメン」(43.3%)、「どんぶり物」(40.6%)、「カレーライス」(33.2%)などが続いています。朝食は“パン食”が主でしたが、昼食では“ごはん”、次いで“めん類”が多いようです。

年齢別でみると、《30代》は「おにぎり」(30代 25.3%、40代 17.6%)、「カップラーメン・スープ」(同 17.7%、11.1%)、「ハンバーガー」(同 10.6%、4.5%)が比較的多く、一方《40代》では「うどん・そば」(同 42.9%、52.8%)が多くなっています。

3. 夕ごはん

3-1. 家で週に何回くらい「夕ごはん」を食べているか

図 9. 家で週に何回くらい「夕ごはん」を食べているか

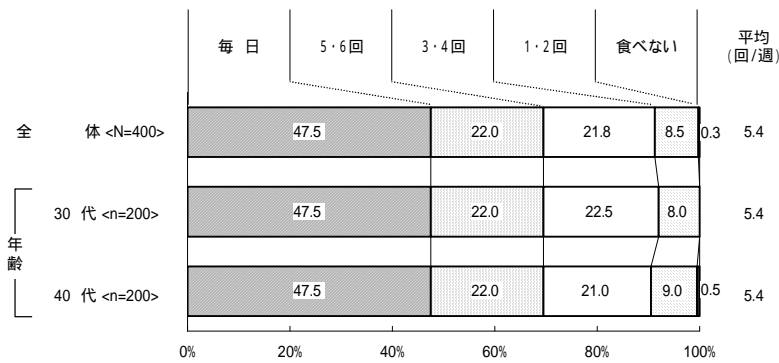
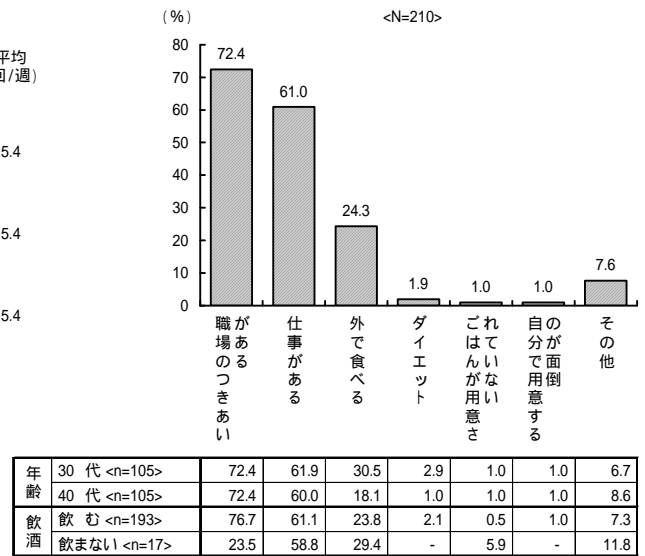


図 10. 夕ごはんを家で食べない日がある理由(複数回答)



「夕ごはん」を家で週に何回くらい食べているかたずねたところ、「毎日」(47.5%)は半数弱で、以下「5・6回」(22.0%)、「3・4回」(21.8%)の順となっています。平均は「5.4回/週」で、「朝ごはん」(4.8回/週)よりやや多くなっています。

年齢別による差はほとんどみられません。

家族の人数別でみると、人数が多いほど「毎日」が《2～3人》38.2% 《4人》46.5% 《5人以上》56.6%と、明らかに高くなっています。

飲酒頻度別に平均回数をみると、《飲まない》(6.1回/週)の方が《飲む》(5.3回/週)人よりやや多くなっています。外で飲食せず、まっすぐ帰宅する人が多いためでしょうか。また、お酒を飲む人の中では《ほぼ毎日》(5.6回/週)飲むの方が《それ以下》(5.1回/週)の人より多くなっていますが、ほぼ毎日飲む人はむしろ家で晩酌するケースが多いためかもしれません。

家族一緒に食事する努力度別に平均回数をみると、《努力していない》5.1回/週 《まあ努力している》5.5回/週 《とても努力している》6.1回となっており、《努力していない》人と《とても努力している》人では食事1回分の差が生じています。

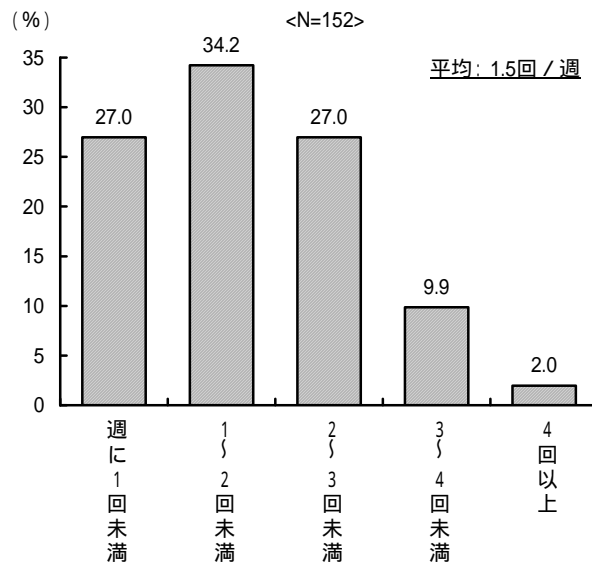
夕ごはんを家で食べない日がある人にその理由を聞いたところ、「職場のつきあいがある」(72.4%)、「仕事がある」(61.0%)の2項目が突出して高く、勤めているとなかなか決まった時間に帰宅できないことが要因といえそうです。

年齢別でみると、《30代》は「外で食べる」(30.5%)という人が《40代》(18.1%)より高くなっています。子どもの年齢も低い若い年代では、自ら外食を選ぶこともあるのかもしれません。

お酒を《飲まない》人は、「職場のつきあいがある」(23.5%)より「外で食べる」(29.4%)の方が高率です。

同居家族人数別でみると、人数が多いほど「職場のつきあいがある」が《2～3人》81.8% 《4人》72.6% 《5人以上》61.2%と、減る傾向にあります。家族の長としての責任を、つきあいより重視するようになるのでしょうか。

図 11 .「職場のつきあい」はどの程度あるか

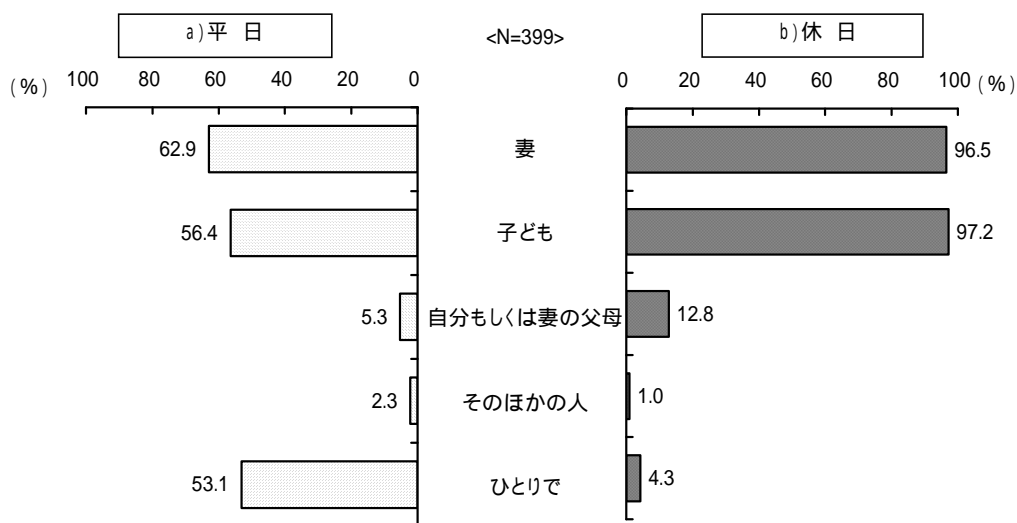


夕ごはんを家で食べない日がある理由として「職場のつきあい」をあげた人に、その頻度がどの程度か聞いたところ、週に「1~2回未満」(34.2%)が最も多く、以下、「週に1回未満」(27.0%)、「2~3回未満」(27.0%)、「3~4回未満」(9.9%)などの順で、平均は「1.5回/週」となっています。

家族一緒に食事をする努力をしている人は、職場のつきあいが少なめです(とても努力:平均0.8回/週、まあ努力:平均1.4回/週、努力していない:平均1.7回/週)。家族一緒に食事をする努力とは、職場のつきあいをほどほどにということのようです。

3 - 2 . 家庭で、誰と一緒に夕ごはんを食べることが多いか

図 12 . 家庭で、誰と一緒に夕ごはんを食べることが多いか



次に、家庭で誰と一緒に夕ごはんを食べることが多いかたずねました。

まず『a) 平日』についてみると、「妻」(62.9%) が最も多く、次いで「子ども」(56.4%) が続きますが、「ひとりで」(53.1%) も半数を超え、家族全員が揃わない日も多いようです。

年齢別でみると、《30代》は「妻」(30代 68.5%、40代 57.3%)、「子ども」(同 62.0%、50.8%) と一緒に食べる人が比較的多く、反対に《40代》では「ひとりで」(同 49.5%、56.8%) が高めになっています。

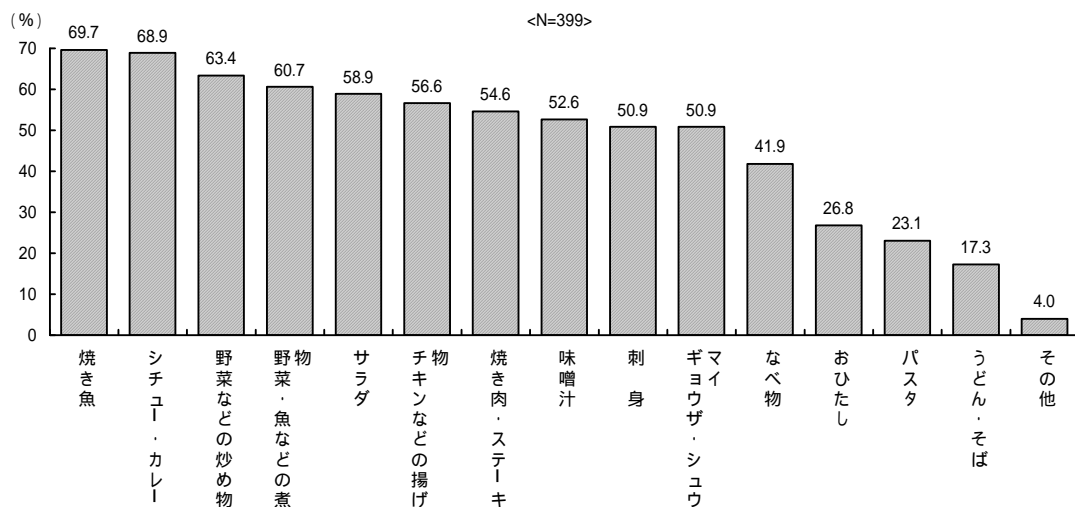
家族一緒に食事する努力度別にみると、《とても努力している》人は「妻」(85.5%)、「子ども」(83.6%) とともに8割以上が一緒に食事をとっており、《努力していない》(妻 55.3%、子ども 51.6%) 人との差は歴然としています。

『b) 休日』についてみると、「子ども」(97.2%) と「妻」(96.5%) とともにほとんどの人があげており、家族全員で食卓を囲む家庭が平日より格段に多いようです。

属性別でも目立った差はありません。

3 - 3 . 家庭の夕ごはんによく出てくる料理・食品

図 13 . 家庭の夕ごはんによく出てくる料理・食品（複数回答）



年齢	30代 <n=200>	63.0	71.0	67.0	57.5	60.5	60.0	54.5	53.5	42.0	48.5	41.0	24.0	27.0	16.0	3.5
	40代 <n=199>	76.4	66.8	59.8	63.8	57.3	53.3	54.8	51.8	59.8	53.3	42.7	29.6	19.1	18.6	4.5
妻の仕事	有職主婦 <n=185>	69.2	71.9	64.9	62.2	61.1	53.5	55.7	55.7	48.6	56.2	40.0	29.2	21.1	15.1	3.2
	専業主婦 <n=211>	70.1	65.9	62.1	59.2	57.3	59.2	53.1	50.2	52.6	45.5	43.6	24.6	24.2	19.0	4.3
親同居	同居 <n=53>	86.8	64.2	67.9	69.8	49.1	50.9	58.5	52.8	66.0	60.4	62.3	24.5	13.2	20.8	-
	非同居 <n=346>	67.1	69.7	62.7	59.2	60.4	57.5	54.0	52.6	48.6	49.4	38.7	27.2	24.6	16.8	4.6

家庭の夕ごはんによく出てくる料理・食品をあげてもらったところ、「焼き魚」(69.7%)がトップで、「シチュー・カレー」(68.9%)も僅差で続いています。以下、「野菜などの炒め物」(63.4%)、「野菜・魚などの煮物」(60.7%)、「サラダ」(58.9%)、「チキンなどの揚げ物」(56.6%)、「焼き肉・ステーキ」(54.6%)などが並んでいます。ちなみに、「味噌汁」(52.6%)をあげた人は半数を超える程度で、必ず食卓にのぼるといえることはないようです。

年齢別でみると、《30代》は「野菜などの炒め物」(30代 67.0%、40代 59.8%)、「チキンなどの揚げ物」(同 60.0%、53.3%)、「パスタ」(同 27.0%、19.1%)が高めであるのに対し、《40代》には「焼き魚」(同 63.0%、76.4%)、「刺身」(同 42.0%、59.8%)をあげる人が多くなっています。年齢とともに好みが変わるのか、あるいは妻の嗜好や夫の健康への気づきに影響しているのかもしれませんが。

妻の仕事の有無別でみると、《有職主婦》は「ギョウザ・シューマイ」(有職主婦 56.2%、専業主婦 45.5%)が高くなっていますが、そのほかの料理に目立った差はありません。

親との同居の有無別でみると、《同居》においては「焼き魚」(同居 86.8%、非同居 67.1%)、「野菜・魚などの煮物」(同 69.8%、59.2%)、「刺身」(同 66.0%、48.6%)、「なべ物」(同 62.3%、38.7%)が高く、全体に和食系のメニュー中心になるようです。一方、《非同居》家族では「サラダ」(同 49.1%、60.4%)、「パスタ」(同 13.2%、24.6%)が多くなっています。

表 1 . 家庭の食事で好きな料理、おかず・ベスト10（自由回答：件）

順位		件数
1	カレー	86
2	なべ物	68
2	焼き魚	68
4	刺身	66
5	ギョウザ	56
6	ハンバーグ	43
7	とりのから揚げ	41
8	焼肉	39
9	里芋、大根などの煮物	31
10	パスタ	27

まず、家庭の食事で好きな料理、おかずを自由回答であげてもらったところ、「カレー」(86件)が最も多く、以下、「なべ物」(68件)、「焼き魚」(68件)、「刺身」(66件)、「ギョウザ」(56件)、「ハンバーグ」(43件)、「とりのから揚げ」(41件)などの順となっています。

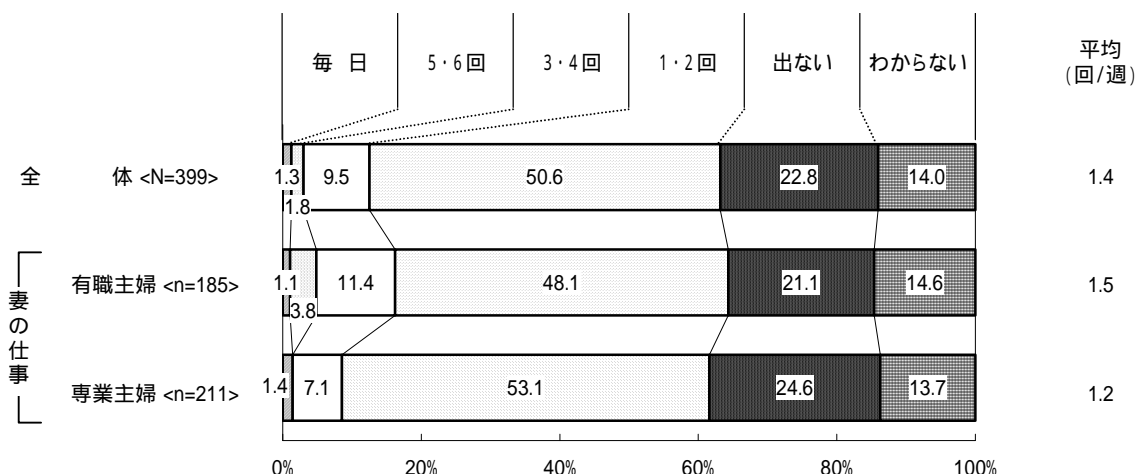
表 2 . 嫌いな食べ物・ベスト10（自由回答：件）

	嫌いな食べ物	件数
1	野菜などの煮物	15
2	カボチャ	13
3	セロリ	12
	納豆	12
5	シチュー・グラタン	11
6	シイタケ	10
	酢の物	10
8	サラダ	9
	煮魚	9
10	なまこ・ほや	8
	ピーマン	8

次に、嫌いな食べ物を聞いたところ、「野菜などの煮物」(15件)が最も多く、次いで、「カボチャ」(13件)、「セロリ」(12件)、「納豆」(12件)が並び、野菜嫌いが目立っています。

3 - 4 . 家の夕ごはん「スーパー・デパートなどで買ったおかず」など手作り以外のものが出る頻度

図 14 . 家の夕ごはん「スーパー・デパートなどで買ったおかず」など手作り以外のものが出る頻度



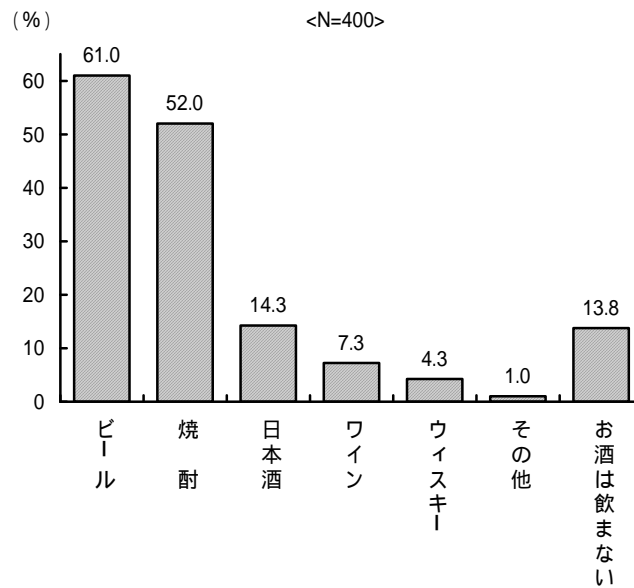
家の夕ごはん「スーパー・デパートなどで買ったおかず」や「冷凍食品」といった“出来合いもの”が出る頻度を聞いたところ、週に「1・2回」(50.6%)が圧倒的に多く、そのほか「3・4回」(9.5%)、「5・6回」(1.8%)など、何回かは“出来合いもの”が食卓に上る家庭が大半を占め、「出ない」(22.8%)家庭は2割程度となっています。また、「わからない」(14.0%)という人も1割強みられます。平均は「1.4回/週」です。

年齢別でみると、回数を問わず“出る”ことがあると回答した人の割合は、《40代》(67.3%)の方が《30代》(59.0%)よりやや高くなっています。

妻の仕事の有無別に平均回数をみると、《有職主婦》(1.5回/週)の方が《専業主婦》(1.2回/週)よりやや多くなっています。

4. ふだん、好んでよく飲むお酒

図 15. ふだん、好んでよく飲むお酒（複数回答）



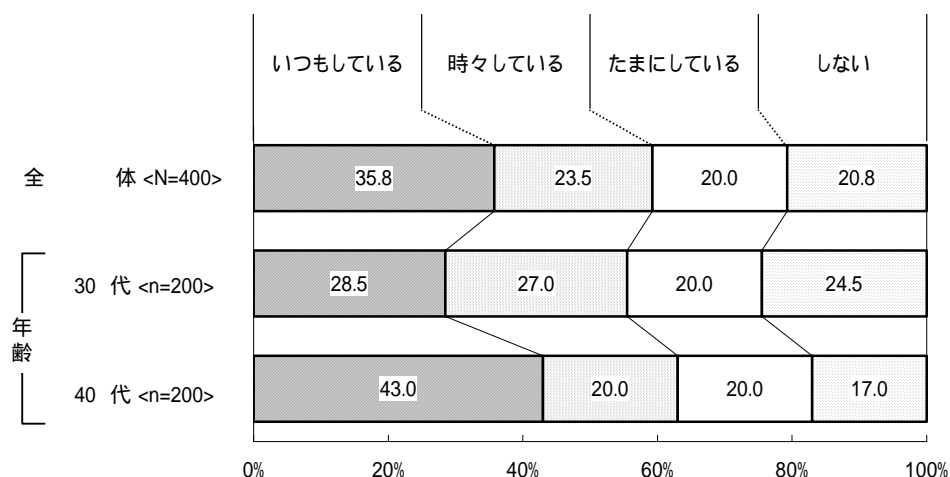
年齢	30代 <n=200>	64.5	46.0	10.0	8.0	1.0	1.5	16.5
40代 <n=200>	57.5	58.0	18.5	6.5	7.5	0.5	11.0	

ふだん、好んでよく飲むお酒についてたずねたところ、「ビール（発泡酒なども含む）」（61.0%）が最も多く、次いで「焼酎（酎ハイ含む）」（52.0%）が続き、この2種類が圧倒的に多くなっています。以下、「日本酒」（14.3%）、「ワイン」（7.3%）、「ウイスキー」（4.3%）などの順で、「お酒は飲まない」人は1割強（13.8%）となっています。

年齢別でみると、《30代》は「ビール」（30代 64.5%、40代 57.5%）をあげる人が一層多く、また、「お酒は飲まない」（同 16.5%、11.0%）という人も若干多くなっています。一方、《40代》は「焼酎」（同 46.0%、58.0%）、「日本酒」（同 10.0%、18.5%）、「ウイスキー」（同 1.0%、7.5%）など、比較的多様なお酒を飲んでいます。

5. 家で晩酌をするか

図 16. 家で晩酌をするか



次に、家で晩酌をするか聞いたところ、「いつもしている」(35.8%)人が3人に1人以上で、「時々している」(23.5%)、「たまにしている」(20.0%)を合わせると、晩酌を“する”(79.3%)人が約8割になります。

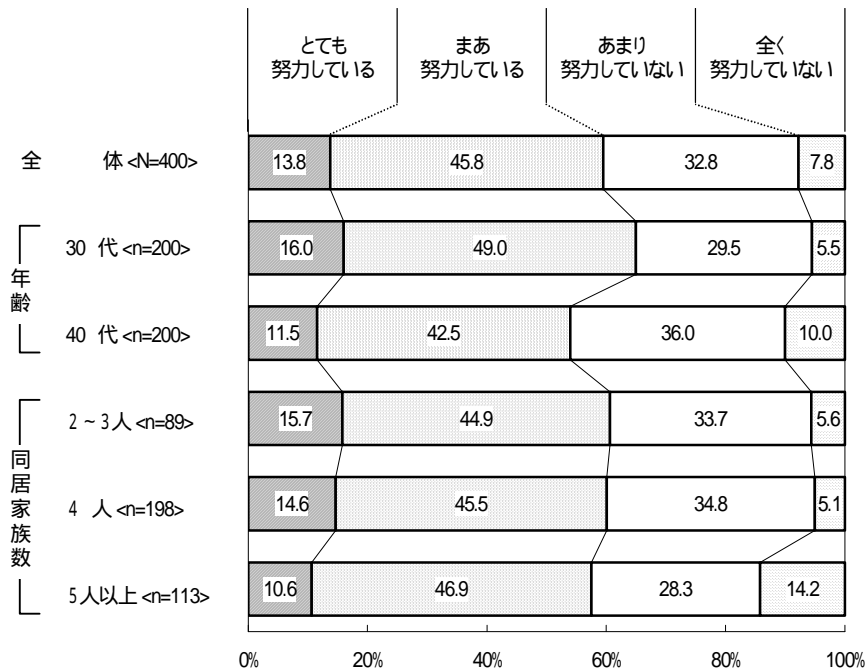
年齢別でみると、「いつもしている」人は《40代》(43.0%)の方が《30代》(28.5%)より多く、反対に「しない」人は《30代》(24.5%)の方が《40代》(17.0%)よりやや多くなっています。

親との同居の有無別でみると、《同居》では「いつもしている」(同居43.4%、非同居34.6%)、「時々している」(同32.1%、非同居22.2%)の率が高いのに対し、《非同居》では「たまにしている」(同9.4%、非同居21.6%)比較的高くなっています。三世代で暮らしている家庭の方が晩酌をすることが多く、世代間の交流の機会になっているのかもしれない。

家族一緒に食事する努力度別でみると、《とても努力している》人は晩酌を「いつもしている」(45.5%)が、《まあ努力している》(38.3%)、《努力していない》(29.6%)人より多くなっています。晩酌が楽しみで、家庭の食卓に向かうという面もあるのかもしれない。但し、「時々している」「たまにしている」を合わせた率は、努力の程度によってあまり変わりません。

1. 家族と一緒にごはんを食べるように努力しているか

図 17. 家族と一緒にごはんを食べるように努力しているか



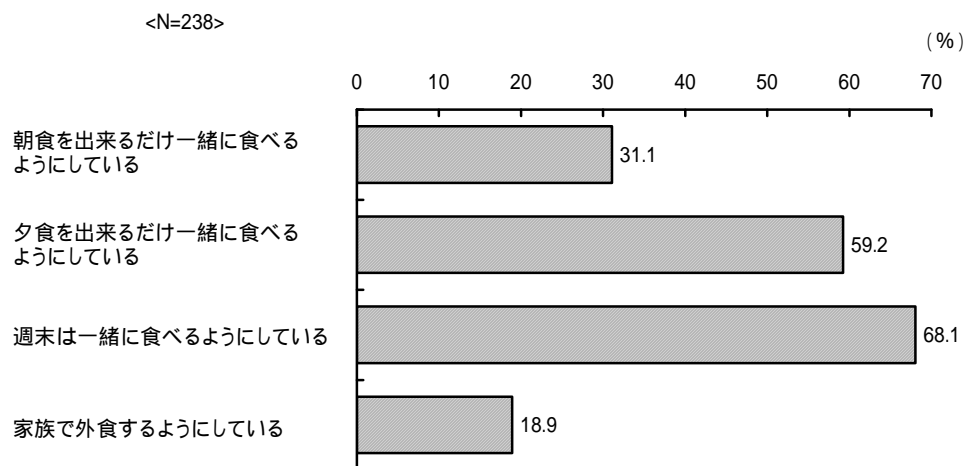
家族と一緒にごはんを食べるように努力しているかどうかをたずねたところ、「とても努力している」(13.8%)人はあまり多くありませんが、「まあ努力している」(45.8%)人は多く、両者合わせて“努力している”(59.5%)人が、“努力していない(あまり+全く)”(40.5%)人を約20ポイント上回っています。

年齢別に“努力している”割合をみると、《30代》(65.0%)の方が《40代》(54.0%)より10ポイント強高くなっています。

同居家族数別でみると、家族数が少ない家庭のほうが、“努力している”人がやや多くなっています。家族が少ないと、自分の存在がより重みを増すように思われるのかもしれませんが。

子どもの学齢別に“努力している”人の率をみると、《小学生+中学生》(68.2%)の家庭で高く、《未就学児+小学生》(63.0%)、《未就学児のみ》(64.0%)の家庭もあまり変わりませんが、《中学生以上のみ》(41.1%)になるとかなり低下します。子どもが成長してくると、父親の食卓における役割もやや軽くなったような気がするのでしょうか。

図 18. どんな努力をしているか (複数回答)



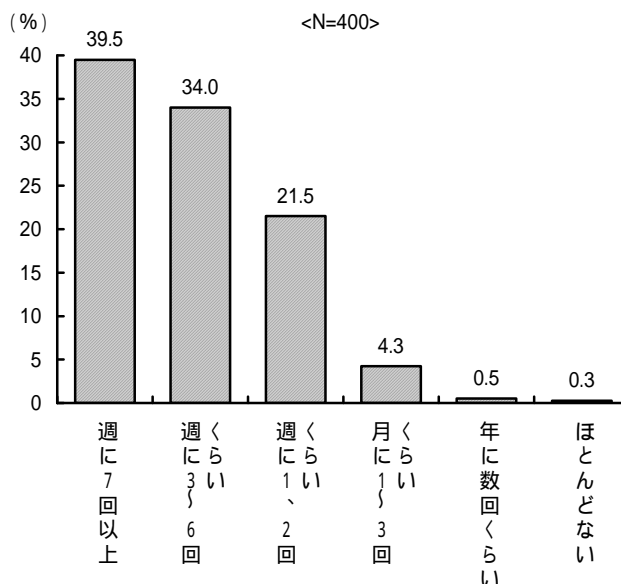
家族とごはんを食べるように“努力している”と答えた人に、どんな努力をしているか聞いたところ、「週末は一緒に食べるようにしている」(68.1%)が最も多く、「夕食を出来るだけ一緒に食べるようにしている」(59.2%)が続いています。

年齢別による目立った傾向の違いはありません。

妻の仕事の有無別にみると、《専業主婦》の場合、「週末は一緒に食べるようにしている」(有職主婦 59.2%、専業主婦 74.8%)、「家族で外食するようにしている」(同 14.3%、22.3%)が高めになっています。

2. 家族が全員そろって食事をとる回数

図 19. 家族が全員そろって食事をとる回数



年齢	30代 <n=200>	40代 <n=200>	週に7回以上	週に3~6回くらい	週に1、2回くらい	月に1~3回くらい	年に数回くらい	ほとんどない
30代 <n=200>	47.0	33.0	14.5	5.5	-	-	-	-
40代 <n=200>	32.0	35.0	28.5	3.0	1.0	0.5	-	-
妻の仕事	有職主婦 <n=186>	35.5	32.8	24.2	5.9	1.1	0.5	-
	専業主婦 <n=211>	42.7	35.5	19.4	2.4	-	-	-
同居家族数	2~3人 <n=89>	50.6	31.5	16.9	1.1	-	-	-
	4人 <n=198>	33.3	37.9	22.7	5.6	0.5	-	-
	5人以上 <n=113>	41.6	29.2	23.0	4.4	0.9	0.9	-

家族が全員そろって食事をとる回数を聞いたところ、「週に7回以上」(39.5%)と、4割の人は平均して“1日に1回”以上家族そろって食事をしているようです。以下、「週に3~6回くらい」(34.0%)、「週に1、2回くらい」(21.5%)が続き、「月に1~3回くらい」(4.3%)など、“週に1回未満”の家庭は5.0%です。

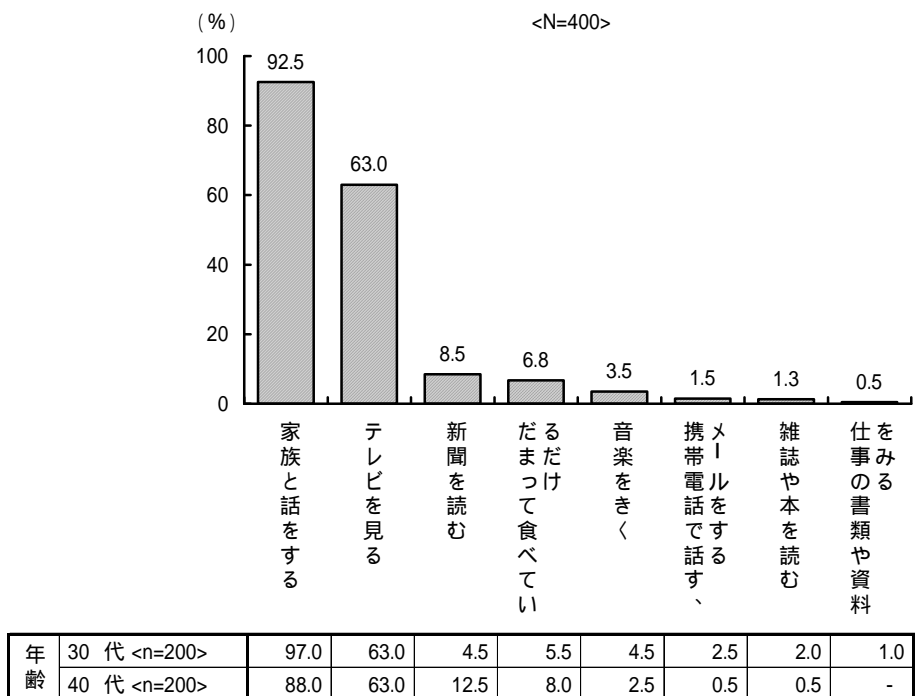
年齢別でみると、「30代」は「週に7回以上」(47.0%)が「40代」(32.0%)より高く、「40代」になると「週に1、2回くらい」(28.5%)などが「30代」(14.5%)より高くなります。子どもの年齢が低い若い世代の方が家族そろって食事をとりやすいようです。

妻の仕事の有無別にみると、「専業主婦」の家庭は「週に7回以上」(42.7%)が「有職主婦」(35.5%)の家庭よりやや高めで、“週に3回以上”も、「専業主婦」(78.2%)の方が「有職主婦」(68.3%)より約10ポイント高くなっています。

同居家族人数別に“週に3回以上”の割合をみると、「2~3人」82.0%、「4人」71.2%、「5人以上」70.8%となっており、少人数の家庭は比較的全員で食事をとりやすいようです。

3. 家で食事の時にしていること

図 20. 家で食事の時にしていること（複数回答）



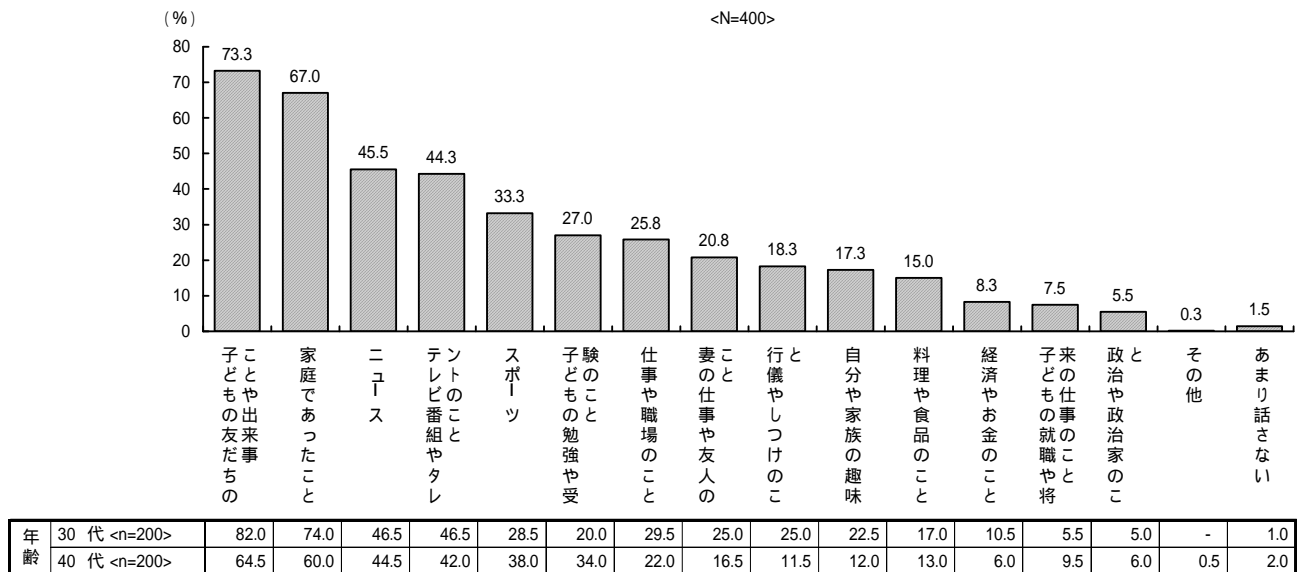
家で食事の時にしていることをみると、「家族と話をする」(92.5%)が圧倒的に多く、コミュニケーションを大事にしている人がほとんどのようです。次いで、「テレビを見る」(63.0%)が続き、この2項目が突出しています。一方、「新聞を読む」(8.5%)、「だまって食べているだけ」(6.8%)、「携帯電話で話す、メールをする」(1.5%)、「雑誌や本を読む」(1.3%)などという人も少数ながらみられます。

年齢別による傾向の違いはありませんが、「30代」は「家族と話をする」(97.0%)が「40代」(88.0%)より高めであり、「40代」は「新聞を読む」(12.5%)が「30代」(4.5%)より高くなっています。

子どもの人数や同居家族数が多いと「テレビを見る」の率が高くなります。とりあえずテレビが団樂のまとめ役をしているのかもしれない。

4. 家で食事の時、家族と話していること

図 21. 家で食事の時、家族と話していること（複数回答）



家で食事の時、家族とどのようなことを話しているかたずねたところ、「子どもの友だちの出来事」(73.3%)が最も多く、続く「家庭であったこと」(67.0%)の2項目が突出しています。以下、「ニュース」(45.5%)、「テレビ番組やタレントのこと」(44.3%)、「スポーツ」(33.3%)、「子どもの勉強や受験のこと」(27.0%)、「仕事や職場のこと」(25.8%)などの順となっています。

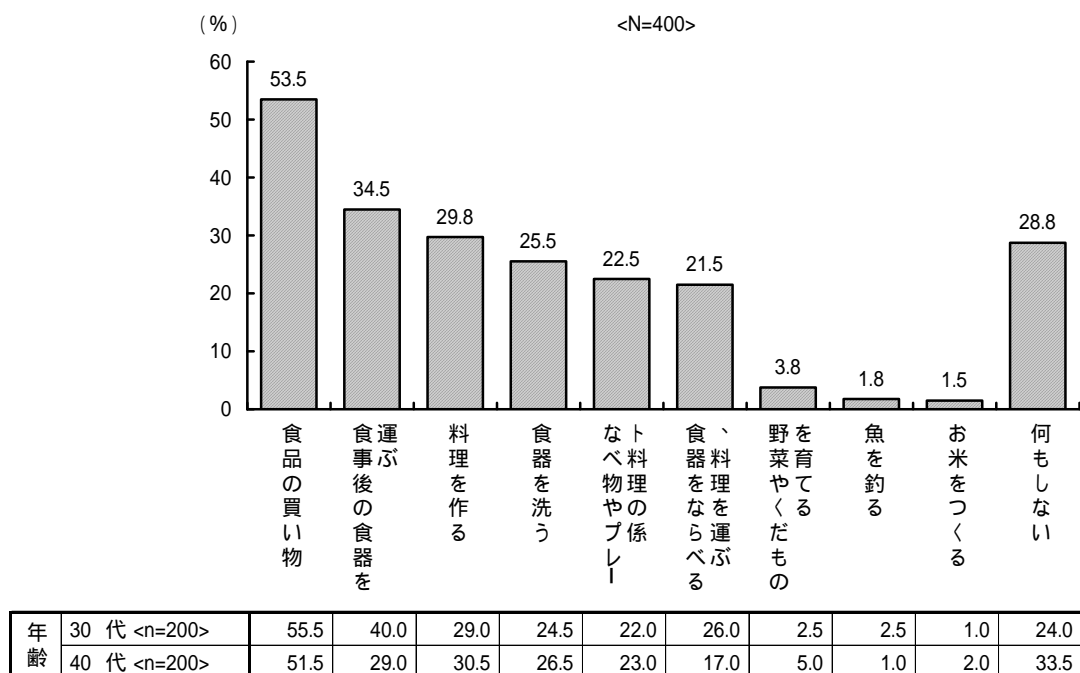
年齢別でみると、総じて《30代》の方がさまざまな事柄を話題にしており、特に、「子どもの友だちの出来事」(30代82.0%、40代64.5%)、「家庭であったこと」(同74.0%、60.0%)、「行儀やしつけのこと」(同25.0%、11.5%)などでは差が顕著です。一方《40代》は「スポーツ」(同28.5%、38.0%)、「子どもの勉強や受験のこと」(同20.0%、34.0%)の話題が多くなっており、子どもの学齢の違いが話題に影響しているようです。

妻の仕事の有無別でみると、《有職主婦》は「妻の仕事や友人のこと」(有職主婦25.8%、専業主婦16.6%)、《専業主婦》では「子どもの友だちの出来事」(同66.7%、78.7%)、「家庭であったこと」(同59.7%、74.4%)が多くあげられています。どちらかというとな妻が提供する話題が多いのかもしれませんが。

子どもの人数別でみると、人数が多いほど、「子どもの勉強や受験のこと」(1人21.4%、2人25.9%、3人以上37.8%)、「仕事や職場のこと」(同19.4%、25.4%、35.1%)、「行儀やしつけのこと」(同7.1%、21.1%、24.3%)、「自分や家族の趣味」(同11.2%、18.4%、21.6%)などが高く、話題が多彩なようです。

5. 家庭の食生活で参加をしていること

図 22. 家庭の食生活で参加をしていること（複数回答）



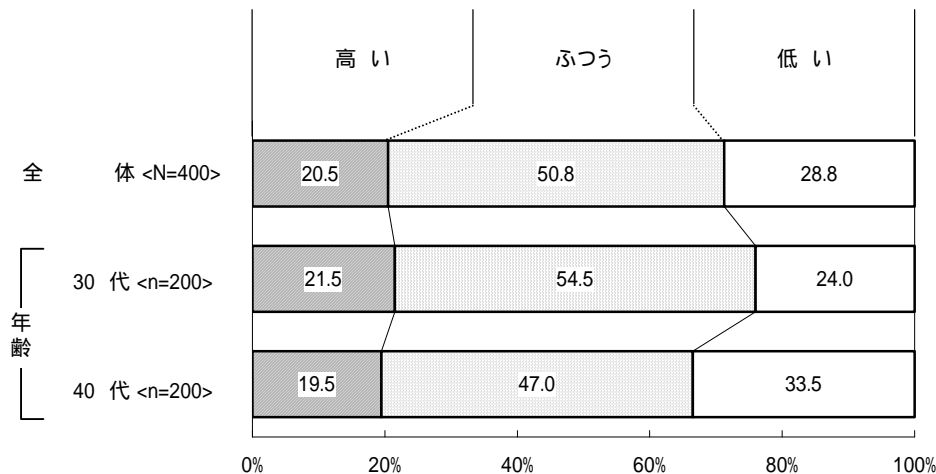
家庭の食生活にかかわることで参加していることがあるかたずねたところ、「食品の買い物」(53.5%)が抜きん出て多くなっています。以下、「食事後の食器を運ぶ」(34.5%)、「料理を作る」(29.8%)、「食器を洗う」(25.5%)、「なべ物やプレート料理の係」(22.5%)、「食器をならべる、料理を運ぶ」(21.5%)などが続いています。さらに、「野菜やくだものを育てる」(3.8%)、「魚を釣る」(1.8%)、「お米をつくる」(1.5%)など、生産に関わる父親も少数ながらみられます。一方、「何もしない」(28.8%)人も3割近くを占めています。

年齢別でみると、《30代》は「食事後の食器を運ぶ」(30代40.0%、40代29.0%)、「食器をならべる、料理を運ぶ」(同26.0%、17.0%)などが高く、一方、《40代》は「何もしない」(同24.0%、33.5%)が高めになっています。若い年代は日常比較的こまめに参加しているようです。

妻の仕事の有無別にみると、全体的に大きな違いはありませんが、「いずれかに参加している」人は、《有職主婦》(75.3%)の家庭の方が《専業主婦》(67.3%)の場合よりやや高率になっており、働く妻をフォローする人がやや多いようです。

子どもの人数別にみると、人数が多いほど「食品の買い物」(1人43.9%、2人53.9%、3人以上64.9%)、「食器を洗う」(同19.4%、23.7%、39.2%)、「料理を作る」(同20.4%、32.5%、以上33.8%)の割合が高くなっています。子どもの人数が多ければどれも仕事が増えるので、父親の出番も多くなるのでしょう。

図 23 . 父親の家事参加度



先にみた『家庭の食生活で参加をしていること』において、参加している事柄が4個以上の場合を参加度が「高い」、1～3個の場合を「ふつう」、0個の場合を「低い」とし、回答者の“家事参加度”を分類したところ、「高い」(20.5%)は2割で、「ふつう」(50.8%)が半数を占めています。また、参加していることが1つも無い「低い」(28.8%)層は3割弱です。

年齢別でみると、「高い」率はあまり変わりませんが、《30代》は「ふつう」(54.5%)が《40代》(47.0%)よりやや高く、「低い」(30代、24.0%)が《40代》(33.5%)より低くなっています。

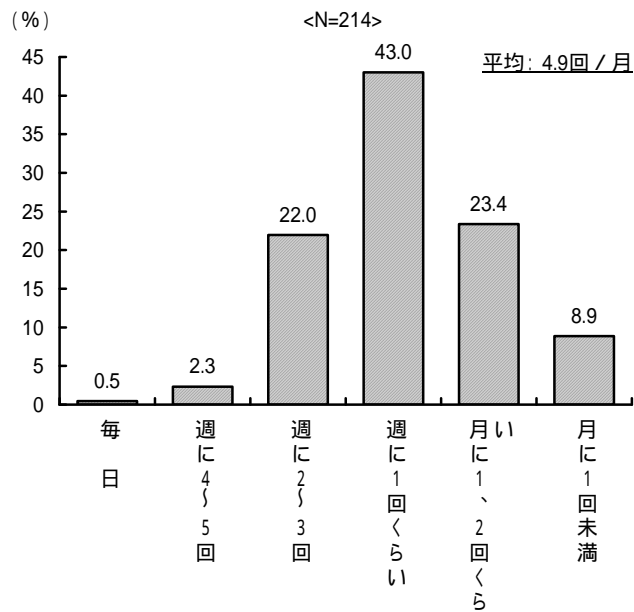
子どもの学齢別に「高い」率をみると、《未就学児+小学生》(26.0%)の父親が最も高く、《未就学児のみ》(20.9%)が続いています。《小学生+中学生》(15.2%)、《中学生以上のみ》(11.0%)と学齢が上がると、低率になってきますが、子どもが成長してくると、父親の参加意欲が薄れるのか、あるいは子どもが代わって手伝いをするようになるのかもしれませんが。

“家事参加度”別に関わりのある項目をみてみました。

	《高い》	《ふつう》	《低い》
・毎日朝ごはんを食べる	56.1%	54.7%	34.8%
・家族とごはんを食べるよう「とても努力している」	25.6%	11.8%	8.7%

家事参加度が高い人ほど、朝ごはんを「毎日食べる」人が多く、家族とごはんを食べる努力もしています。

図 24 . 食品の買い物をする頻度



食品の買い物をする頻度をみると、「週に1回くらい」(43.0%)が最も多く、以下、「月に1、2回くらい」(23.4%)、「週に2~3回」(22.0%)などの順で、「4.9回/月」となっています。

年齢別に平均回数をみると、「40代」(5.3回/月)の方が「30代」(4.5回/月)よりやや多くなっています。

図 25 . 家で料理を作る頻度

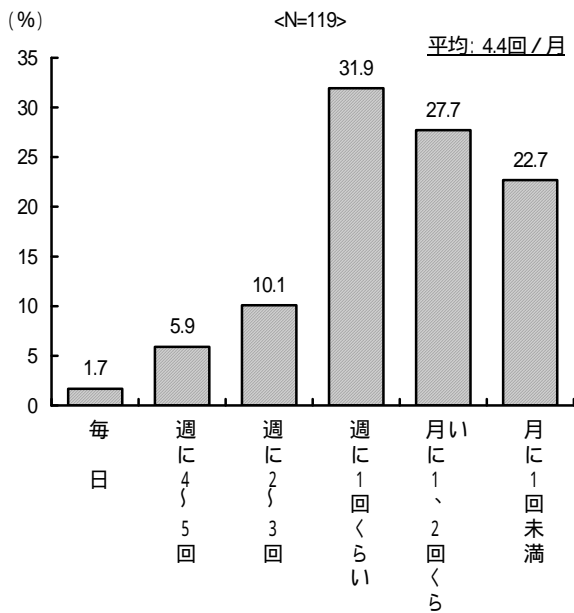


表 3 . 家でよく作る料理名・ベスト10 (自由回答: 件)

順位	料理名	件数
1	チャーハン	25
2	パスタ	17
3	カレー	16
4	卵料理	14
	焼きそば・焼きうどん	14
	ラーメン・うどん・そば	14
	ハンバーグ・肉料理	14
8	炒め物	13
9	魚料理	11
10	お好み焼き・たこ焼き・ピザ	9

家で料理を作る頻度は、「週に1回くらい」(31.9%)が最も多く、以下、「月に1、2回くらい」(27.7%)、「月に1回未満」(22.7%)などの順で、「週に2~3回」(10.1%)以上料理をする人は2割弱です。平均は「4.4回/月」で、週1回程度になります。

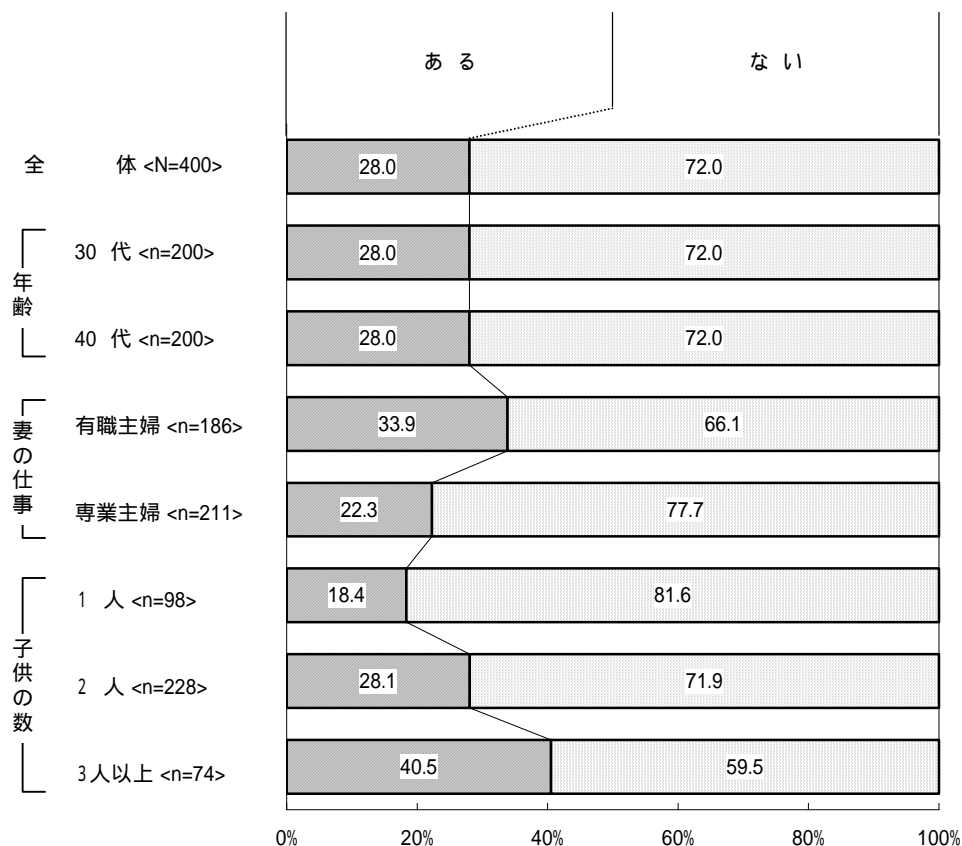
年齢別に平均回数をみると、《40代》(4.7回/月)の方が《30代》(4.1回/月)よりやや多くなっています。

妻の仕事の有無別にみると、《有職主婦》(5.1回/月)の家庭の方が《専業主婦》(3.4回/月)家庭より多く、ここでも共働きの方が家事に参加する割合が高くなっています。

家で料理を作ることがある人に、どのような料理を作るかを自由回答で聞いたところ、「チャーハン」(25件)が最も多く、次いで「パスタ」(17件)、「カレー」(16件)が続いています。以下は同数で、「卵料理」「焼きそば・焼きうどん」「ラーメン・うどん・そば」「ハンバーグ・肉料理」(それぞれ14件)などが続いています。

6. 子どものごはんやお弁当を作ったことがあるか

図 26. 子どものごはんやお弁当を作ったことがあるか



子どものごはんやお弁当を作ったことがあるかどうかたずねたところ、「ある」(28.0%)人は3割弱で、「ない」(72.0%)が大半を占めています。

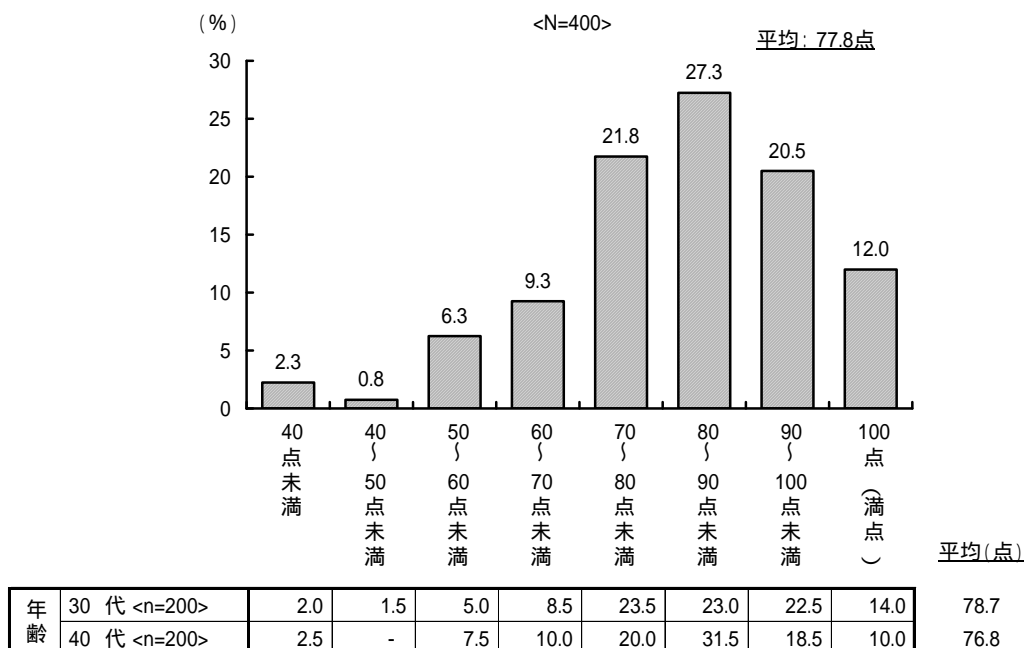
年齢別による差はありません。

妻の仕事の有無別にみると、《有職主婦》の家庭では「ある」(33.9%)が《専業主婦》(22.3%)家庭より10ポイント以上高くなっています。

子どもの人数別にみると、人数が多いほど「ある」の割合が高くなっており、母親の家事の負担が重くなると、フォローする父親が多くなるようです。

7. 日頃の食生活についての満足度を採点すると 100 点満点で何点になるか

図 27. 日頃の食生活についての満足度を採点すると 100 点満点で何点になるか



日頃の食生活にどの程度満足しているかを 100 点満点で採点してもらいました。

「80～90 点未満」(27.3%) が最も多く、「70～80 点未満」(21.8%)、「90～100 点未満」(20.5%) が続き、「100 点 (満点)」(12.0%) という人も 1 割強みられます。平均は「77.8 点」となっています。

年齢別による大きな差はみられません。

先に聞いた「出来合いもの」を出す頻度別に「手作り度」を《低》(週3回以上)《中》(週1・2回)《高》(出ない)と分類し、この「手作り度」別に食生活の満足度をみると、《低》73.1 点 《中》78.2 点 《高》80.0 点になり、「手作り度」が高いほど、満足度が上がっています。

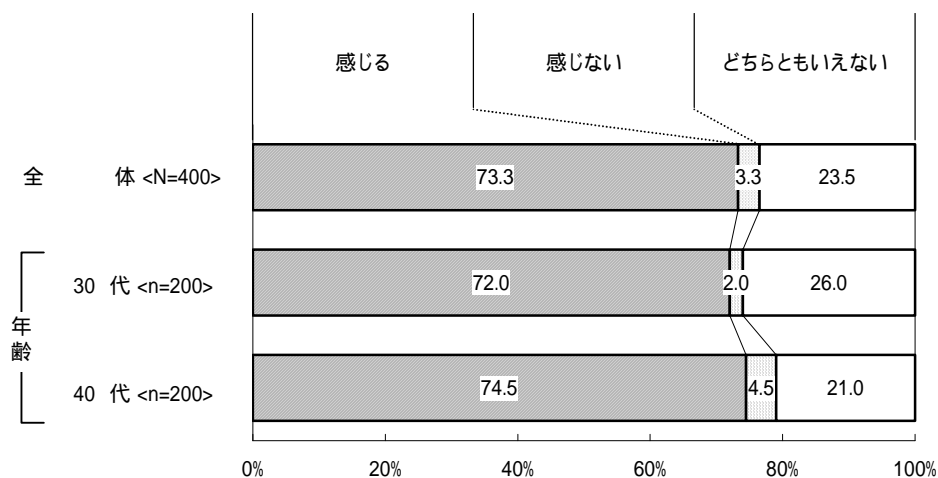
食生活の満足度が「90 点以上」を《高い》(32.5%)、「70～90 点未満」を《ふつう》(49.0%)、「70 点未満」を《低い》(18.5%)として、満足度別に関わりのある項目をみてみました。

	《高い》	《ふつう》	《低い》
・毎日朝ごはんを食べる	62.3%	44.4%	39.2%
・ひとりで朝ごはんを食べる	34.2%	53.5%	50.8%
・家で毎日夕ごはんを食べる	52.3%	48.5%	36.5%
・平日ひとりで夕ごはんを食べる	40.8%	55.6%	68.5%
・職場のつきあい が「週に1回未満」	19.2%	27.1%	40.0%
・家族とごはんを食べるよう「とても努力している」	22.3%	10.2%	8.1%

食生活満足度が高い人ほど、朝ごはん、夕ごはんとも「毎日食べる」人が多く、「ひとりで食べる」は少なくなっています。職場のつきあい があまり少ないと、家庭の食生活のよさを感じにくくなるようで、時々 職場のつきあい をしながら、家族とごはんを食べる努力するような状況が、満足に繋がっているようです。

8 . 自分が一家の大黒柱だと感じているか

図 28 . 自分が一家の大黒柱だと感じているか



自分が一家の大黒柱だと感じているかどうかたずねたところ、4人中3人が「感じる」(73.3%)と答え、それ以外も「どちらともいえない」(23.5%)という人が多く、「感じない」(3.3%)人はごく少数です。

年齢別による目立った差はありません。

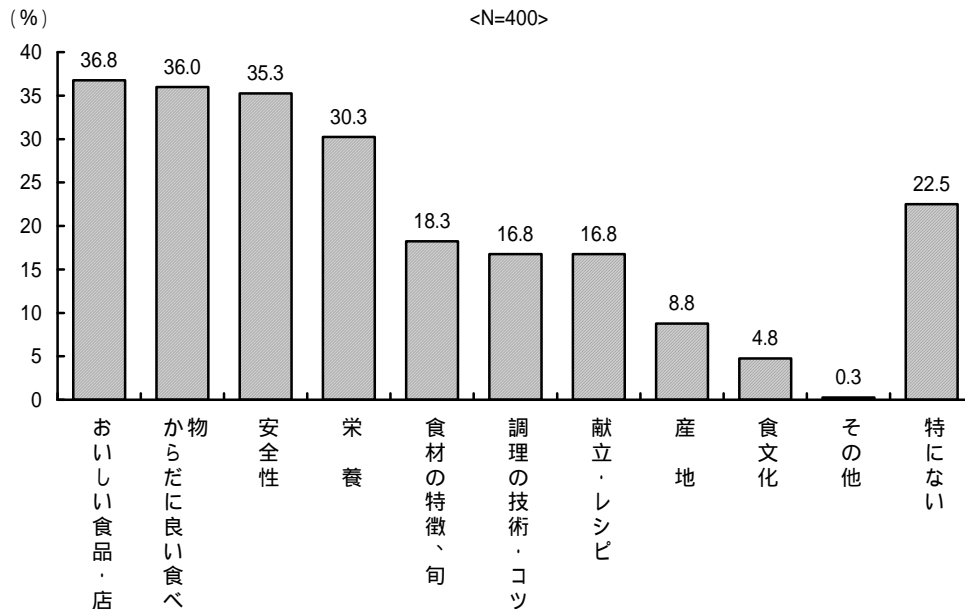
妻の仕事の有無別で見ると、《専業主婦》の家庭は大黒柱だと「感じる」(79.1%)率が《有職主婦》(66.7%)より高くなっています。

親との同居の有無別では、《非同居》(75.5%)の方が《同居》(58.5%)より「感じる」率が高くなっています。

なお、大黒柱と感じているか否かで、食生活の満足度をみると、「感じる」78.6点、「どちらともいえない」76.1点、「感じない」71.5点となっており、家庭の食生活と大黒柱の実感には関係がありそうです。

1. 食について、どんなことに関心があるか

図 29. 食について、どんなことに関心があるか（複数回答）



年齢	30代 <n=200>	38.0	35.0	35.0	16.5	15.0	17.5	8.5	3.5	0.5	19.0
40代 <n=200>	36.5	34.0	35.5	25.5	20.0	18.5	16.0	9.0	6.0	-	26.0

食（料理や食べ物、食べ方など）について、どのようなことに関心があるかたずねたところ、「おいしい食品・店」（36.8%）が最も多く、グルメ志向がうかがえますが、「からだに良い食べ物」（36.0%）、「安全性」（35.3%）、「栄養」（30.3%）が続いており、“おいしいさ”と“健康”の両方への関心が高くなっています。以下、「食材の特徴、旬」（18.3%）、「調理の技術・コツ」（16.8%）、「献立・レシピ」（16.8%）などの順ですが、「特にない」（22.5%）という人も2割強みられます。

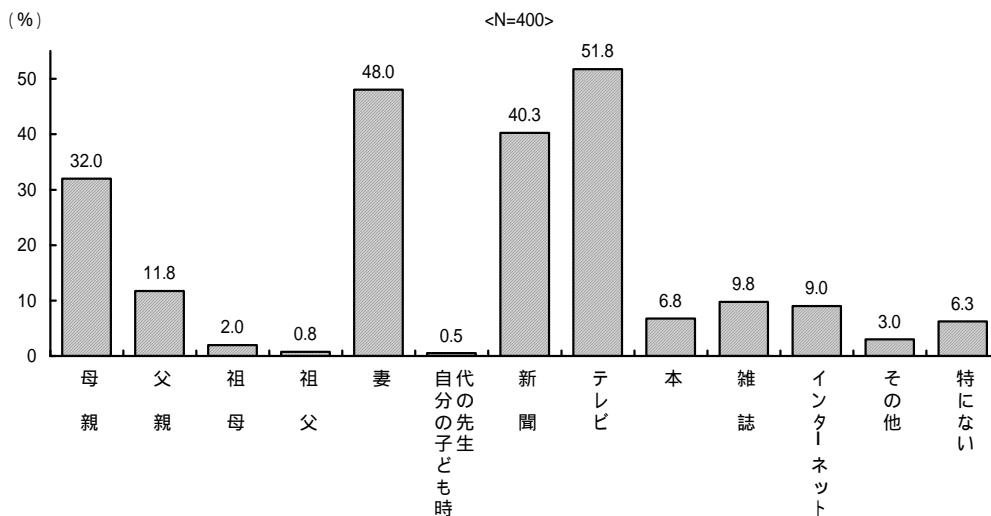
年齢別による傾向の違いはありませんが、「30代」は「栄養」（35.0%）が「40代」（25.5%）より高めで、「40代」は「特にない」（26.0%）がやや多くなっています。

妻の仕事の有無別にみると、「専業主婦」の方が「栄養」（有職主婦 24.7%、専業主婦 35.1%）、「安全性」（同 31.7%、38.4%）の割合が高くなっています。

子どもの人数別にみると、子どもが多いほど「おいしい食品・店」（1人 25.5%、2人 40.4%、3人以上 40.5%）、「食材の特徴、旬」（同 11.2%、18.9%、25.7%）、「調理の技術・コツ」（同 11.2%、17.5%、21.6%）、「献立・レシピ」（同 12.2%、17.1%、21.6%）などの項目が高く、父親の関与がよりアップするようです。

2. “食とのかかわり”について、何、もしくは誰の影響が大きいと思うか

図 30. “食とのかかわり”について、何、もしくは誰の影響が大きいと思うか（複数回答）



年齢	30代 <n=200>	32.0	13.0	3.5	1.0	52.5	0.5	40.0	54.5	6.5	9.0	9.5	3.0	5.5
40代 <n=200>	32.0	10.5	0.5	0.5	43.5	0.5	40.5	49.0	7.0	10.5	8.5	3.0	7.0	

“食とのかかわり”について、これまでどういった人、あるいはモノの影響を受けてきたかを複数回答でたずねたところ、「テレビ」(51.8%)が最も多く、「妻」(48.0%)が僅差で続いており、以下も「新聞」(40.3%)、「母親」(32.0%)、「父親」(11.8%)、「雑誌」(9.8%)、「インターネット」(9.0%)などメディアと家族双方から影響を受けているようです。家族では「母親」より「妻」の影響を受けている人が多くなっています。

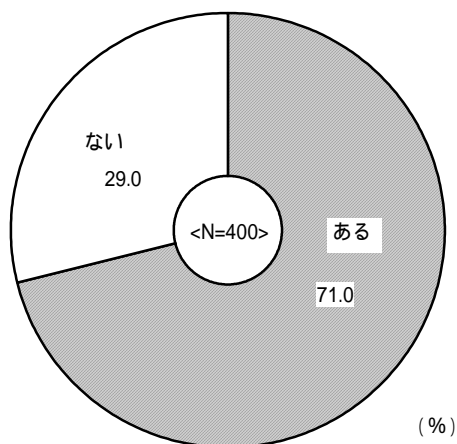
年齢別による傾向の違いはありませんが、「30代」は「妻」(52.5%)が「40代」(43.5%)より高くなっています。

妻の仕事の有無別にみると、「専業主婦」の家庭は「テレビ」(有職主婦 46.8%、専業主婦 56.4%)、「新聞」(同 31.2%、48.3%)などマスメディアを中心に各項目とも高めです。

家事参加度別にみると、参加度が高い人ほど「妻」(高い 57.3%、ふつう 47.8%、低い 41.7%)、「母親」(同 40.2%、36.0%、19.1%)、「父親」(同 23.2%、12.3%、2.6%)が高く、両親の教育や妻の影響を強く受けているようです。一方、参加度が低い人ほど「新聞」(同 31.7%、32.5%、60.0%)の比重が高くなっています。

3. 「おふくろの味」というものがあるか

図 31. 「おふくろの味」というものがあるか



「おふくろの味」というものがあるかどうかたずねたところ、7割が「ある」(71.0%)と答え、「ない」(29.0%)を大きく上回っています。

年齢別による差はありません。

妻の仕事の有無別でみると、《専業主婦》の家庭は「ある」(75.4%)が《有職主婦》(65.6%)の家庭より高くなっています。

日頃の手作り度別でみると、《低》64.6% 《中》72.1% 《高》75.8%と、手作り度が高いほど「ある」の割合も高くなっています。

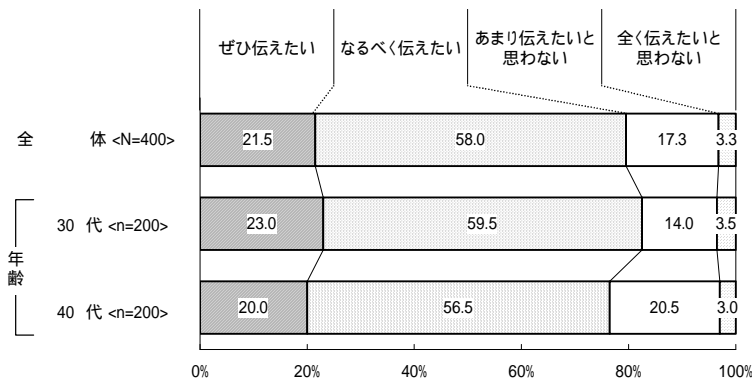
表 4. 「おふくろの味」とは具体的にどういうものか・ベスト10 (自由回答：件)

順位		件数
1	煮物	73
2	味噌汁など汁物	61
3	ご飯もの(オムライス除く)	34
4	肉じゃが	28
5	カレー	24
6	フライ・揚げ物	19
7	卵料理(オムライス含む)	17
8	ギョウザ・シュウマイ	16
9	漬物	15
10	おでん・鍋・すいとん	13

おふくろの味が「ある」と答えた人に、具体的な料理をあげてもらったところ、「煮物」(73件)がトップで、次いで「味噌汁など汁物」(61件)と、この2品目突出しています。以下、「ご飯もの(オムライス除く)」(34件)、「肉じゃが」(28件)、「カレー」(24件)などが続いています。

4. 郷土料理や行事食を子どもの世代に伝えていきたいと思うか

図 32. 郷土料理や行事食を子どもの世代に伝えていきたいと思うか 表 5. 好きな郷土料理・行事食は何か・ベスト10 (自由回答: 件)



順位	好きな郷土料理・行事食	件数
1	鍋・汁物	67
2	お雑煮	61
3	その他のご飯・もち	43
4	お寿司	39
5	煮物	34
6	赤飯	23
7	お節料理	22
8	魚介類・加工品	19
9	そば・うどん	18
10	おはぎ	14

郷土料理や行事食を子どもの世代に伝えていきたいと思うかどうかたずねたところ、「ぜひ伝えたい」(21.5%) 「なるべく伝えたい」(58.0%) と “伝えたい”(79.5%) 人が8割近くを占め、“伝えたいと思わない(あまり+全く)”(20.5%) 人は少数です。

年齢別による大きな差はみられません。

子どもの人数別でみると、《3人以上》68.9% 《2人》79.4% 《1人》87.8%と、少ないほど“伝えたい”という人が多くなっています。

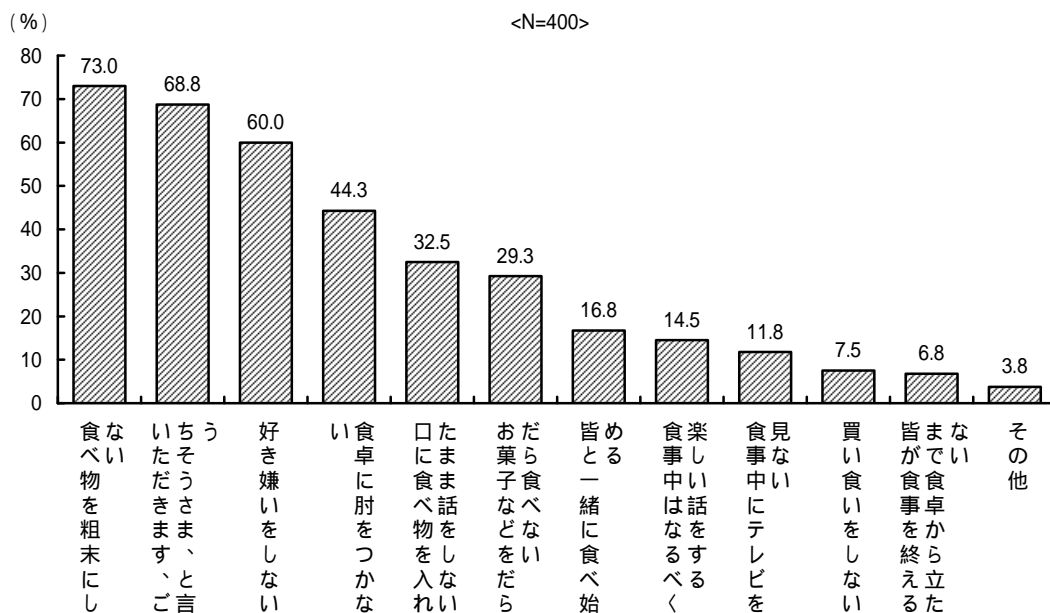
手作り度別でみると、《低》68.8% 《中》79.6% 《高》87.9%となっており、日ごろの手作り度と伝統食伝承への意欲は共通しているようです。

父親の家事参加度別でも、《低い》75.7% 《ふつう》78.8% 《高い》86.6%と、父親が積極的に参加しているほど食の伝承への意識も高くなっています。

好きな郷土料理・行事食を具体的にあげてもらったところ、「鍋・汁物」(67件)が最も多く、「お雑煮」(61件)も僅差で続いています。以下、「その他(お雑煮、お寿司、赤飯、おはぎなど以外)のご飯・もち」(43件)「お寿司」(39件)「煮物」(34件)などの順となっています。

5. 食べ物や食事について、子どもに教えてきたこと

図 33. 食べ物や食事について、子どもに教えてきたこと（複数回答）



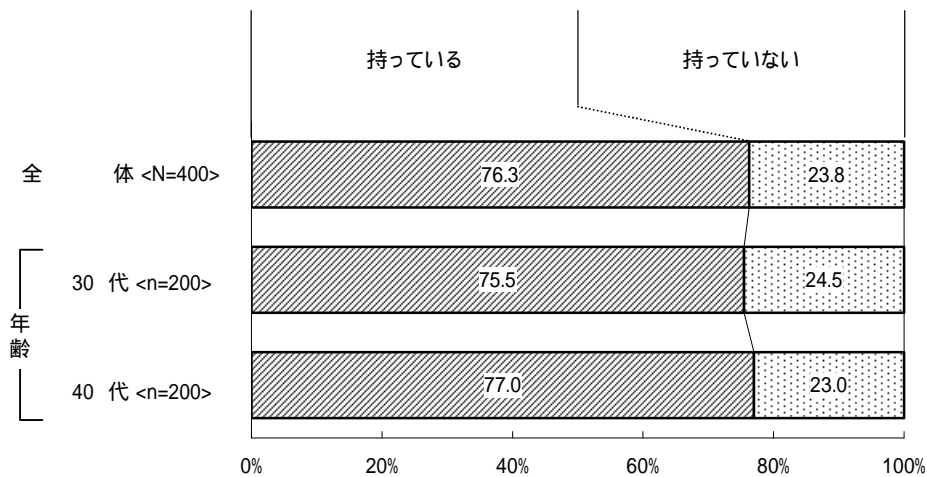
食べ物や食事について、子どもに教えてきたことをあげてもらったところ、「食べ物を粗末にしない」(73.0%) が最も多く、そのほか、「いただきます、ごちそうさま、と一言」(68.8%) と「好き嫌いをしない」(60.0%) も過半数があげており、食べ物のおもてなしやあいさつが中心となっています。以下、「食卓に肘をつかない」(44.3%) 「口に食べ物を入れたまま話をしない」(32.5%) 「お菓子などをだらだら食べない」(29.3%) などの順で、食事の際の礼儀や節制についても教えてきた人が多くなっています。

年齢別にみると、《30代》の方が「いただきます、ごちそうさま、と一言」(30代 73.5%、40代 64.0%) 「食卓に肘をつかない」(同 49.0%、39.5%) 「皆が食事を終えるまで食卓から立たない」(同 11.0%、2.5%) の割合が高くなっています。子どもの年齢が低いので、基本的なしつけを口にする人が多いのでしょう。

子どもの人数別にみると、総じて人数が多いほどさまざまな事柄をあげており、「食べ物を粗末にしない」(1人 54.1%、2人 78.5%、3人以上 81.1%) 「好き嫌いをしない」(同 37.8%、65.8%、71.6%) 「食卓に肘をつかない」(同 18.4%、47.8%、67.6%) などはその傾向が顕著です。子どもそれぞれに教えるには何度も繰り返すことになるでしょう。

6. おはしの持ち方

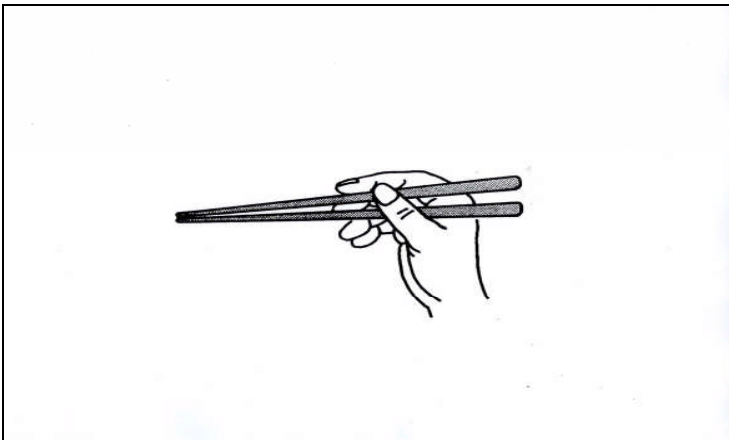
図 34. おはしの持ち方



父親自身は、おはしを参考図のように持っているかどうか聞いたところ、「持っている」(76.3%)のは4人中3人の割合で、「持っていない」(23.8%)人も4人に1人弱見られます。

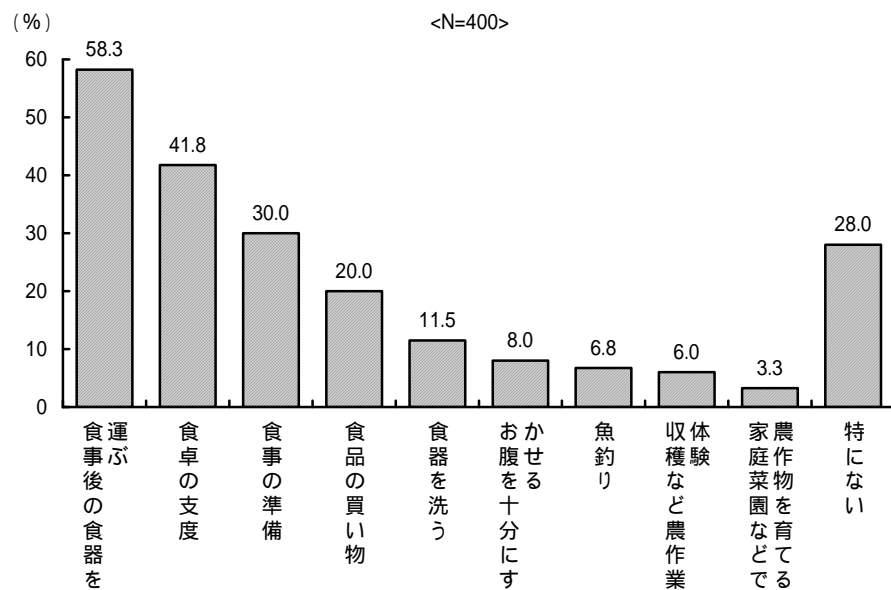
年齢別による差はほとんどありません。

おはしの持ち方参考図



7. 子育ての中で、食物や食事について、子どもに参加・実行させるようにしてきたこと

図 35. 子育ての中で、食物や食事について、子どもに参加・実行させるようにしてきたこと（複数回答）



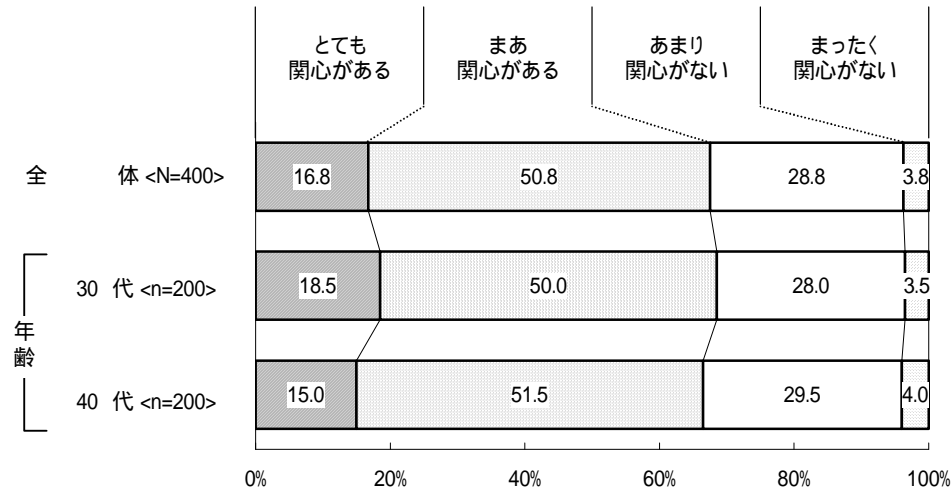
子性別	割合 (%)										
	男女両方 <n=184>	63.6	44.6	33.7	14.7	13.0	7.1	10.3	6.0	2.7	25.5
	男子のみ <n=117>	50.4	35.0	19.7	19.7	6.8	12.0	6.0	6.8	2.6	35.9
女子のみ <n=99>	57.6	44.4	35.4	30.3	14.1	5.1	1.0	5.1	5.1	23.2	

子育ての中で、食物や食事について、子どもに参加・実行させるようにしてきたことをみると、「食事後の食器を運ぶ」（58.3%）が最も多く、次いで、「食卓の支度」（41.8%）、「食事の準備」（30.0%）が続き、食事の前後の手伝いをさせている家庭が多くなっています。以下、「食品の買い物」（20.0%）、「食器を洗う」（11.5%）、「お腹を十分にすかせる」（8.0%）などの順ですが、「魚釣り」（6.8%）、「収穫など農作業体験」（6.0%）など生産に関わる体験をさせてきた家庭はごく少数にとどまっています。また、「特になし」（28.0%）という家庭も3割近くを占めています。

子どもの性別でみると、《女子》のいる家庭では、「食卓の支度」（両方 44.6%、男子のみ 35.0%、女子のみ 44.4%）、「食事の準備」（同 33.7%、19.7%、35.4%）などの手伝いをよくさせているようです。また、《女子のみ》の家庭では「食品の買い物」（同 14.7%、19.7%、30.3%）が多くなっています。一方、《男子》のいる家庭では、「お腹を十分にすかせる」（同 7.1%、12.0%、5.1%）、「魚釣り」（同 10.3%、6.0%、1.0%）が高めになっています。

1. 「食の安全」への関心度

図 36. 「食の安全」への関心度



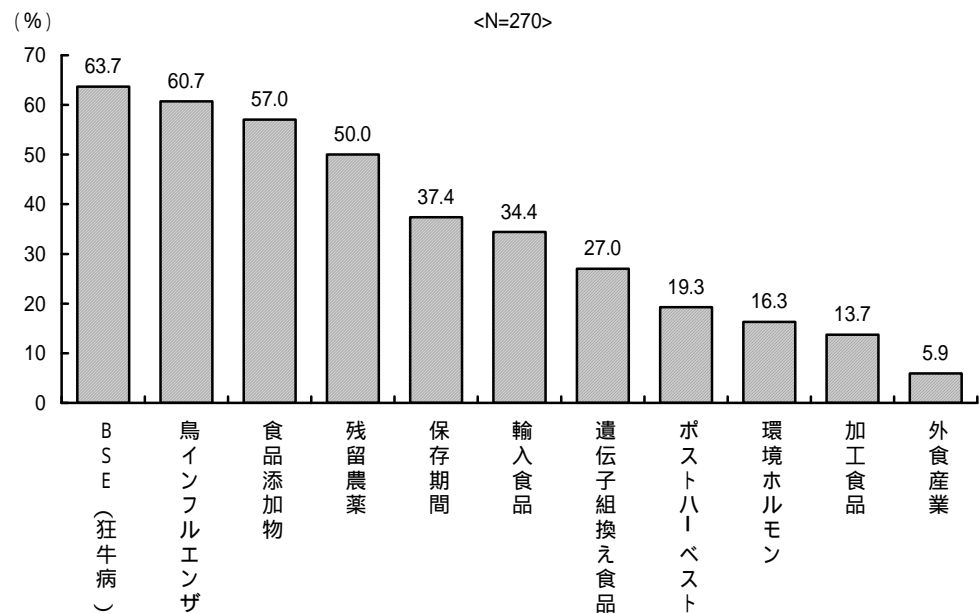
「食の安全」に対してどの程度関心を持っているかたずねたところ、「とても関心がある」(16.8%)はあまり多くありませんが、「まあ関心がある」(50.8%)は半数を超え、両者を合わせた“関心がある”(67.5%)人が3分の2を占めています。“関心がない”(32.5%)人は少数です。

年齢別による目立った差はありません。

手作り度別に“関心がある”人の割合をみると、《低》64.6% 《中》67.7% 《高》74.7%の順に高くなっており、日頃の食への取り組み方と父親の安全についての意識には共通したものがあるようです。

父親の家事参加度別でみると、《低い》56.5% 《ふつう》68.5% 《高い》80.5%と、家事に積極的に参加している父親の方が食の安全への意識も明らかに高くなっています。

図 37 . 関心のあること (複数回答)



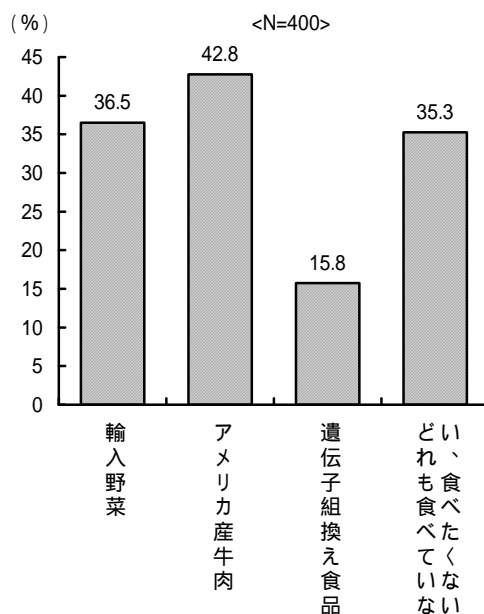
年齢	30代 <n=137>	62.8	54.7	57.7	50.4	37.2	34.3	27.7	21.2	19.7	11.7	5.1
40代 <n=133>	64.7	66.9	56.4	49.6	37.6	34.6	26.3	17.3	12.8	15.8	6.8	

“関心がある”と答えた人に、どのような事柄に関心を持っているか聞いたところ、「BSE (狂牛病)」(63.7%) が最も多く、次いで「鳥インフルエンザ」(60.7%)と、日頃よく食べている食肉に関する問題が上位を占めています。また、「食品添加物」(57.0%)、「残留農薬」(50.0%)も半数以上が関心を示しており、知らない間に蓄積しているかも知れない化学物質への不安も強いようです。以下、「保存期間」(37.4%)、「輸入食品」(34.4%)、「遺伝子組換え食品」(27.0%)、「ポストハーベスト」(19.3%)、「環境ホルモン」(16.3%)などの順となっています。

年齢別でみると、「40代」は「鳥インフルエンザ」(66.9%)が「30代」(54.7%)に比べて高く、「30代」は「環境ホルモン」(19.7%)が「40代」(12.8%)よりやや高率になっています。

2. 日頃から食べている、あるいは食べてもかまわないと思っているもの

図 38. 日頃から食べている、あるいは食べてもかまわないと思っているもの（複数回答）



年齢	30代 <n=200>	35.5	45.0	17.0	34.5
	40代 <n=200>	37.5	40.5	14.5	36.0
食安の全	関心がある <n=270>	33.0	36.3	14.4	40.4
	関心がない <n=130>	43.8	56.2	18.5	24.6

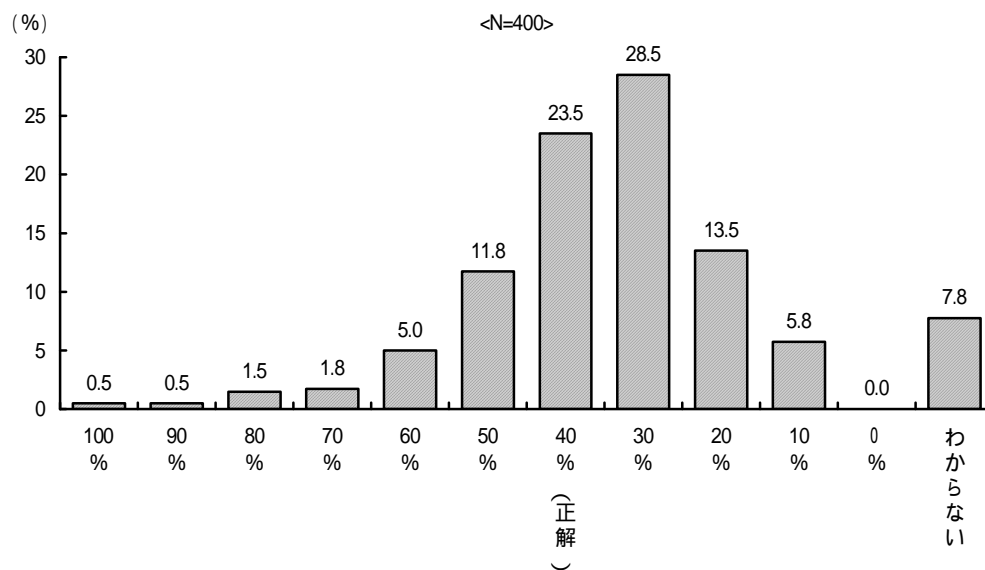
次に、最近安全性について話題になっている3種類の食品について、日頃から食べている、あるいは食べてもかまわないと思っているものを選んでもらったところ、「アメリカ産牛肉」(42.8%)を4割強、「輸入野菜」(36.5%)も4割弱があげており、「遺伝子組換え食品」(15.8%)は低率なものの、「どれも食べていない、食べたくない」(35.3%)という人は3分の1強にとどまっています。不安材料はあっても経済的事情や味のためか、容認している人は少なくないようです。

年齢別による目立った差はありません。

食の安全への関心度別で見ると、《関心がある》層の方が各食品とも「食べてもかまわない」とする割合が低く、「アメリカ産牛肉」は《関心がない》(56.2%)と《関心がある》(36.3%)の差が大きくなっています。

3. 現在、日本の食料自給率はどれくらいだと思うか

図 39. 現在、日本の食料自給率はどれくらいだと思うか



年齢	30代 <n=200>	0.5	-	1.0	2.5	5.0	12.0	18.5	28.5	17.0	5.0	-	10.0
	40代 <n=200>	0.5	1.0	2.0	1.0	5.0	11.5	28.5	28.5	10.0	6.5	-	5.5

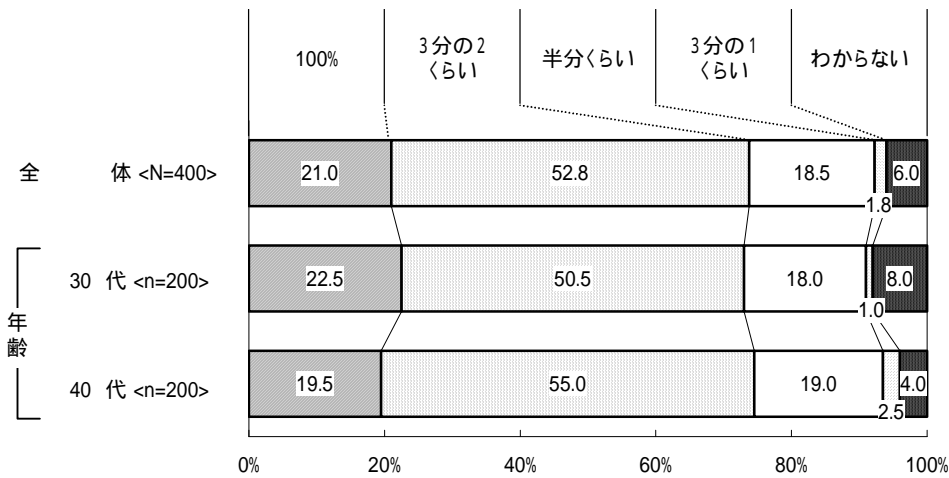
現在、日本の食料自給率はどれくらいだと思うかたずねたところ、「30%」(28.5%)が最も多く、正解である「40%」(23.5%)と答えた人は4人に1人弱にとどまっています。以下、「20%」(13.5%)、「50%」(11.8%)などが続き、実際より低いと見ている「30%」以下の人が半数近く(47.8%)を占めています。また、「わからない」(7.8%)も1割弱みられます。

年齢別でみると、「40代」は正解である「40%」(28.5%)が「30代」(18.5%)より10ポイント高く、「30代」は、「20%」(17.0%)が高めです。

食の安全への関心度別でみると、「《関心がある》」層の正解率は27.0%で、「《関心がない》」(16.2%)層を10ポイント強上回っています。しかし「《関心がある》」層は実際より低めに見る傾向があり、「《関心がない》」層では、「わからない」(15.4%)が多くなっています。

4. 日本は、どの程度食料を自給すべきだと思うか

図 40. 日本は、どの程度食料を自給すべきだと思うか



日本はどの程度食料を自給すべきだと思うかをたずねたところ、「3分の2くらい」(52.8%)が半数を占め、次いで「100%」(21.0%)、「半分くらい」(18.5%)などの順となっています。現在より低い「3分の1くらい」は1.8%のみで、9割以上が食料自給率を上げるべきだとの考えです。

年齢別による明らかな傾向の違いはみられません。

食の安全への関心度別でみると、「関心がある」人は「100%」(24.1%)や「3分の2くらい」(54.4%)が「関心がない」(順に、14.6%、49.2%)人より高くなっています。食品の安全は自給によって保たれると考えているのかも知れません。

5. 子どもの世代にとって望ましいと思う食の環境とは

表 6. 子どもの世代にとって望ましいと思う食の環境とは（自由回答：件）

順位		件数
1	無添加、無農薬など安全性が高く健康的な食環境	141
2	食料自給率の向上や自然保護などにより、食糧に困らない環境	68
3	好き嫌いがなく、1日3回栄養バランスのとれた食事をとる	38
4	家族全員が揃った食事（家庭料理を食べる）	36
5	食べ物を大切にし、作った人へ感謝の気持ちを持つことができる	34
6	自分たちで作物を作り、知識を得ることができる環境	20
7	日本の食文化を大事にした食事	15
8	素材を生かし、旬を感じることができる食環境	12
9	食べることを楽しむことができる環境	9
10	マナーのある食生活	7
11	食糧生産性を向上させ、より良いものを他国へ輸出できる環境	2
	その他	8

最後に、自分の子どもの世代にとって望ましいと思う食の環境はどのようなものをたずねたところ、「無添加、無農薬など安全性が高く健康的な食環境」（141件）が圧倒的に多く、次世代の健康への気づかいがうかがえます。次いで、「食料自給率の向上や自然保護などにより、食糧に困らない環境」（68件）と、飢えのない健やかな食生活を望む長期的視野にたった意見が上位に並びました。以下、「好き嫌いがなく、1日3回栄養バランスのとれた食事をとる」（38件）、「家族全員が揃った食事（家庭料理を食べる）」（36件）、「食べ物を大切にし、作った人へ感謝の気持ちを持つことができる」（34件）などが続き、昨今の食育でも語られているように、きちんとした食事、家族交流の場としての食卓、食文化や旬、生産者への感謝などを大切にしたいという望みが多くなっています。

過去の調査

農林中央金庫では、平成15年度より「食」に関する調査を実施してきました。

平成16年2月-東京近郊の子供を持つ主婦400人に聞く-『世代をつなぐ食』その実態と意識

平成17年2月-東京近郊の小中学生400人の- 親から継ぐ『食』、育てる『食』

平成18年3月-東京近郊の高校生400人に聞く-現代高校生の食生活 家族で育む『食』

平成19年2月-東京近郊の父親400人に聞く-現代の父親の食生活 家族で育む『食』

今回は過去の調査結果と絡めて、「父親」「母親」「高校生」「小学生・中学生」の各世代間の様々な違いをみていきます。

表7. 過去の調査結果との比較

過去調査との比較	平成15年度 「母」	平成16年度 「小学生・中学生」	平成17年度 「高校生」	平成18年度 「父」
毎日朝ごはんを食べる割合	-	83.8%	68.8%	49.3%
朝ごはんを食べない割合	-	0.5%	3.5%	12.0%
朝ごはんでたべるもの	-	パン	パン	パン
毎日夕ごはんを食べる割合	-	84.8%	81.0%	47.5%
好きな料理・おかず	-	ハンバーグ	カレー	カレー
		カレーライス	シチュー(2位)	なべ物(2位)
		餃子	からあげ(2位)	焼き魚(2位)
きれいな料理・おかず	-	魚	ピーマン	野菜の煮物
		ピーマン	魚	かぼちゃ
		野菜	セロリ	セロリ・納豆
食事の時にしていること	-	家族と話をする(80.3%)	家族と話をする(70.3%)	家族と話をする(92.5%)
		テレビを見る(62.5%)	テレビを見る(65.3%)	テレビを見る(63.0%)
食について関心のあること	献立・レシピ	料理の作り方	料理の作り方	おいしい食品・店
食について子供に教えてきた事柄	いただきます・ご馳走さまをいう	-	-	食べ物を粗末にしない
おはしを図のように持てる	-	58.0%	65.0%	76.3%
子供に参加させるようにしてきたもの	食事後の食器を運ぶ	-	-	食事後の食器を運ぶ
食の安全に「とても・まあ関心がある」	88.8%	51.5%	52.5%	67.5%
日本の食糧自給率 正解者	-	-	13.8%	23.5%
どの程度自給すべきか	-	-	半分くらい	3分の2

食事の頻度・内容等について、「父親」「高校生」「小学生・中学生」の世代間にみられる傾向

【頻度】朝ごはんは、「小学生・中学生」「高校生」「父親」と、年齢が上がるにつれて毎日食べる人の割合が減少する傾向があります。また、夕ごはんを毎日家で食べる割合も、同様の傾向がみられます。

【内容】朝ごはんはパンが多い傾向があり、これは各世代に共通しています。また、好きな料理にはどの世代にもカレーがランクインしています。一方、「小学生・中学生」「高校生」が嫌いな料理・おかずとして挙げている「魚」が、「父親」世代では好きな料理2位(焼き魚)に入っています。子ども時代は嫌いなものでも、年齢を重ねるにつれて好きになることがあるのでしょうか。

【はし】はしを伝統的な持ち方で持つ比率は、「小学生・中学生」「高校生」「父親」と、年齢が上がるにつ

れて高まっています。子ども時代には身につけていなくても、成長の過程で徐々に身につけていくことができるのかもしれませんが。

食に関する意識について「父親」「母親」「高校生」「小学生・中学生」の世代間にみられる傾向

【関心】食についてもっとも興味があることは、「父親」は「おいしい食品・店」ですが、その他の世代は「料理の作り方」です。「母親」は「献立・レシピ」を挙げており、家族の健康のため、栄養バランスなどを気遣って家庭での食事を作っていることがうかがえます。食の安全についての興味は「母親」がもっとも高く（88.8%）、ついで「父親」（67.5%）、「高校生」（52.5%）、「小学生・中学生」（51.5%）となります。

【教育】子どもに「食」について教えてきたことは、「母親」は「いただきます・ご馳走様をいう」を挙げており、「父親」は「食べ物を粗末にしない」を挙げています。子どもに実際に実践させてきたのは、「父親」「母親」ともに「食事後の食器を運ぶ」ことです。

今回の調査および過去の調査の結果、現代の「父親」「母親」「高校生」「小学生・中学生」の各世代ごとに、食に関する意識や傾向は異なっていることがわかりました。成長の度合いや家族の中での立場、生活環境の違いなどが違いの原因であると考えられ、世代間の差をなくす（均質化する）ことが必ずしも適切であるとはいえません。しかしながら、仕事や学校のために失われがちな「家族揃っての食事の機会」を確保することや、（特に）成長過程の子どもの孤食などは避けるよう努力する必要があります。

本調査によると、大家族のほうが家族で食事を一緒に摂る機会が多く、子どもへのしつけの中身も多岐にわたる傾向があります。少子化が進む今日では、自然体では徐々に子どもの食育の機会が失われていくこととなります。

その一方で、父親の「努力」により家族が食事をとる回数が増加するなど、心がけによりこうした傾向を改善することができることがうかがえます。

鳥インフルエンザや食中毒、自給率の低下など、現代の食に関する様々な課題があるなかで、家庭での食問題が取り上げられることは比較的少ないのが現状です。しかしながら家庭での食問題は子どもや家族の成長に大きな影響を与えることは間違いなく、すべての人の心身に大きな影響を与える極めて重要な問題であることを再確認する必要があるのではないのでしょうか。